

綾瀬川の河岸場跡を訪ねて 総集編

足立区立郷土博物館展示解説ボランティア 鈴木 恒雄



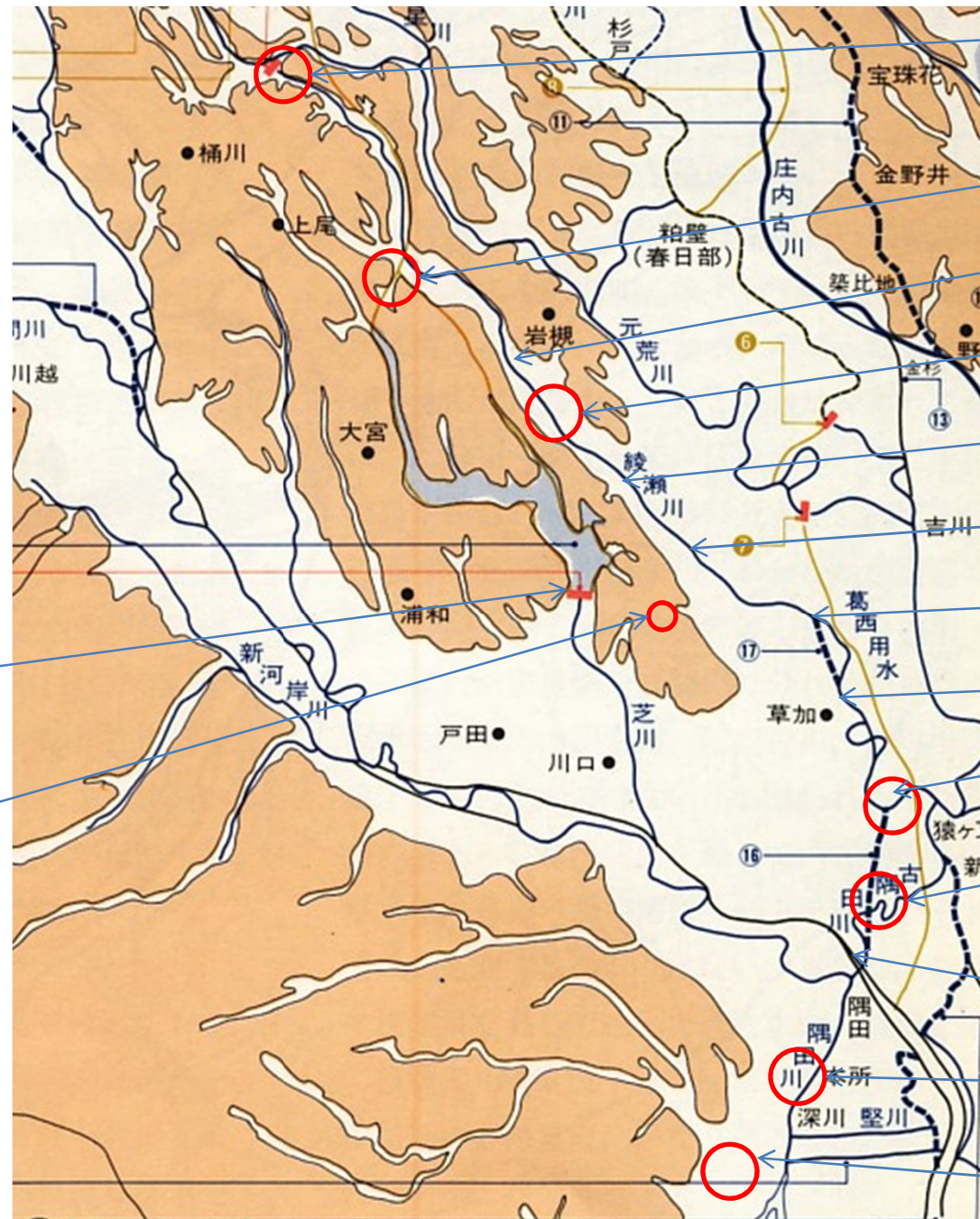
日本橋
米河岸
風景

綾瀬川 舟運関係 広域 地図

大熊孝
(1981)の図
を加筆

八丁堤

赤山陣屋



1 備前堤

2 境橋、小室陣屋
馬込・瓦葺河岸

3 岩槻 新河岸

4 妙見河岸

5 大門・啜河岸

6 戸塚・銀蔵河岸

7 蒲生・藤助河岸

8 甚左衛門河岸

9 榎戸河岸

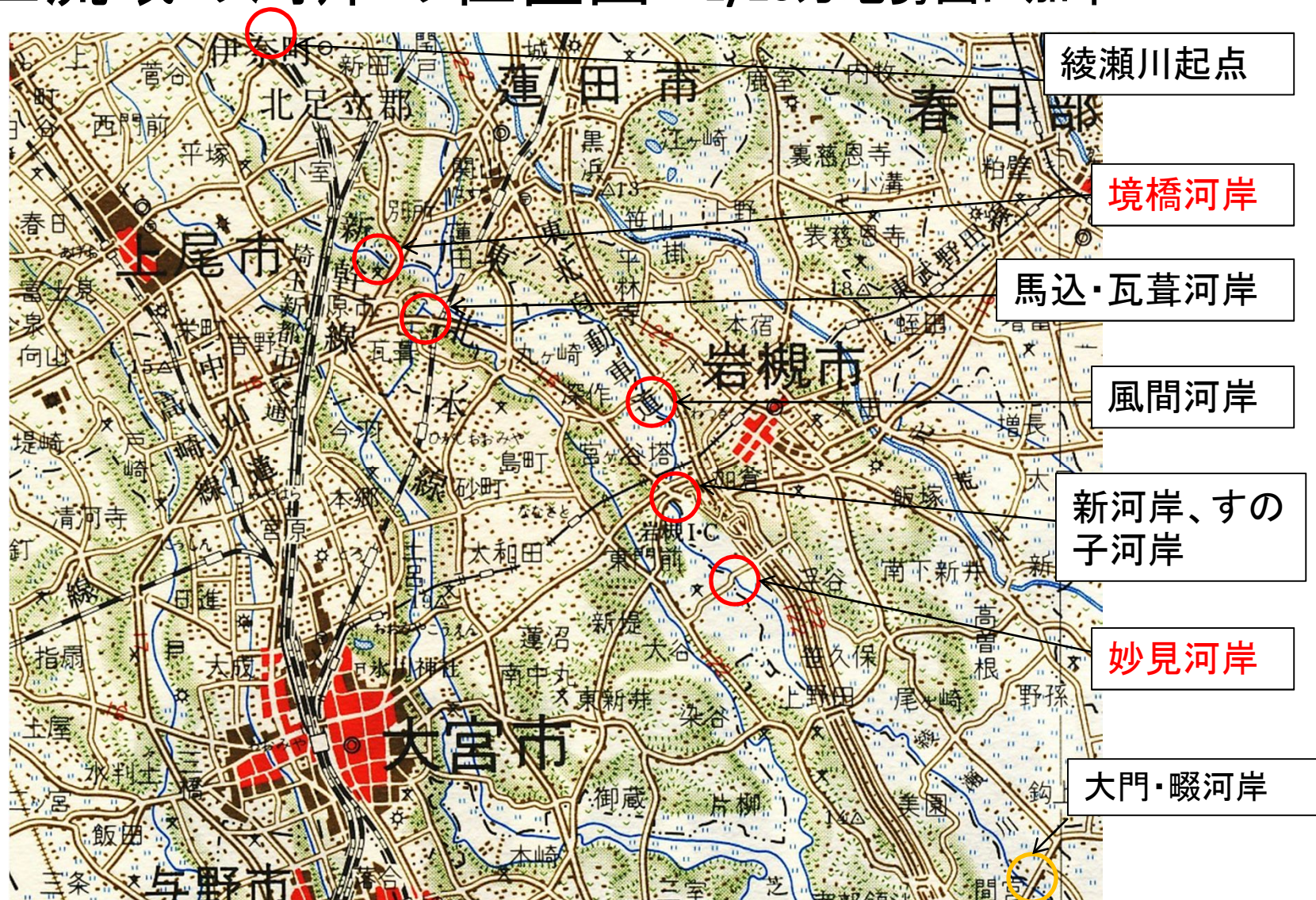
10 水戸橋河岸
小菅粃蔵

11 綾瀬橋

12 浅草・御蔵

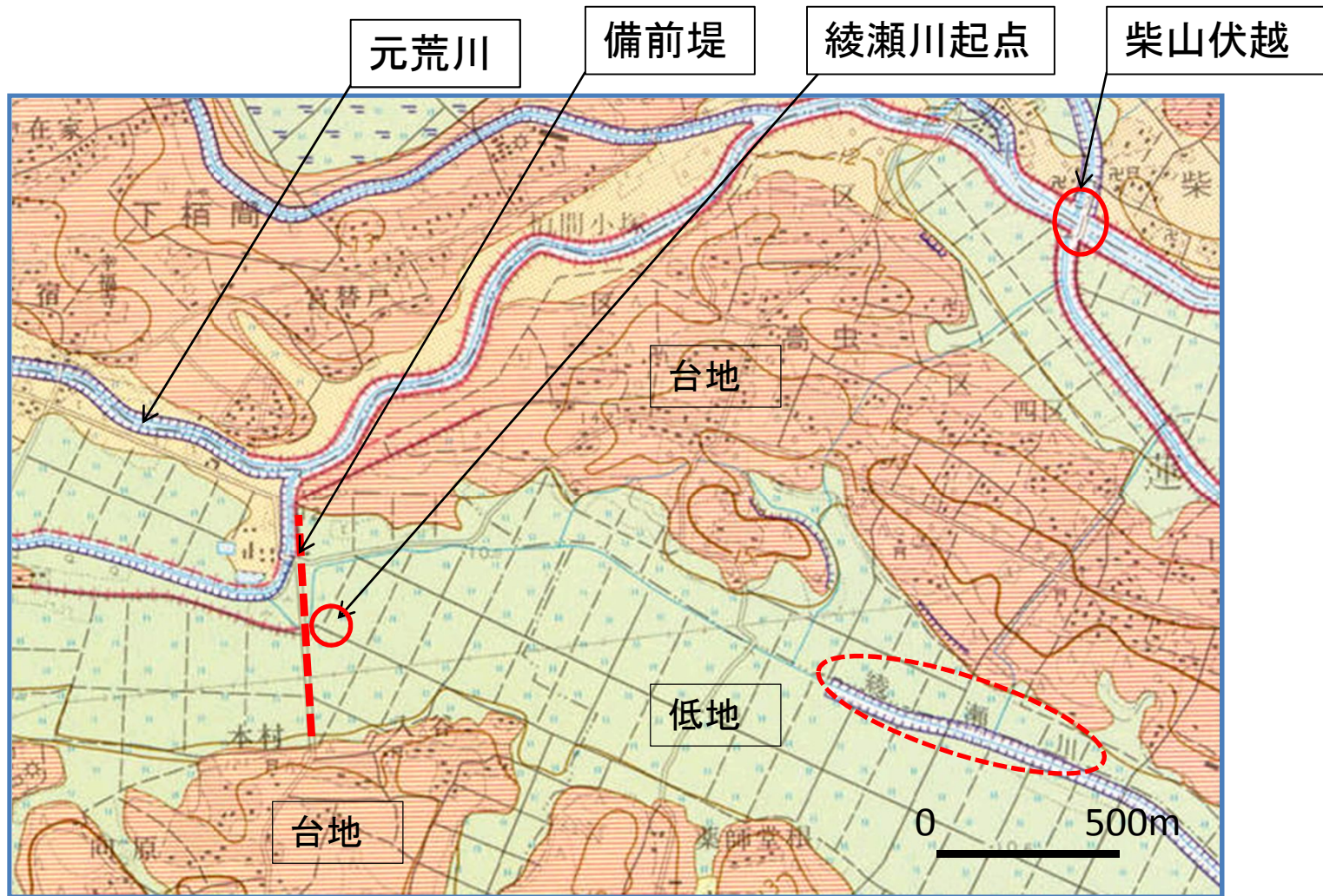
13 日本橋米河岸

上流域の河岸の位置図 1/20万地勢図に加筆



綾瀬川の源流付近

2万5千分の1 1977年(昭和52)



国土地理院洪水地形分類図を加筆

綾瀬川の起点付近

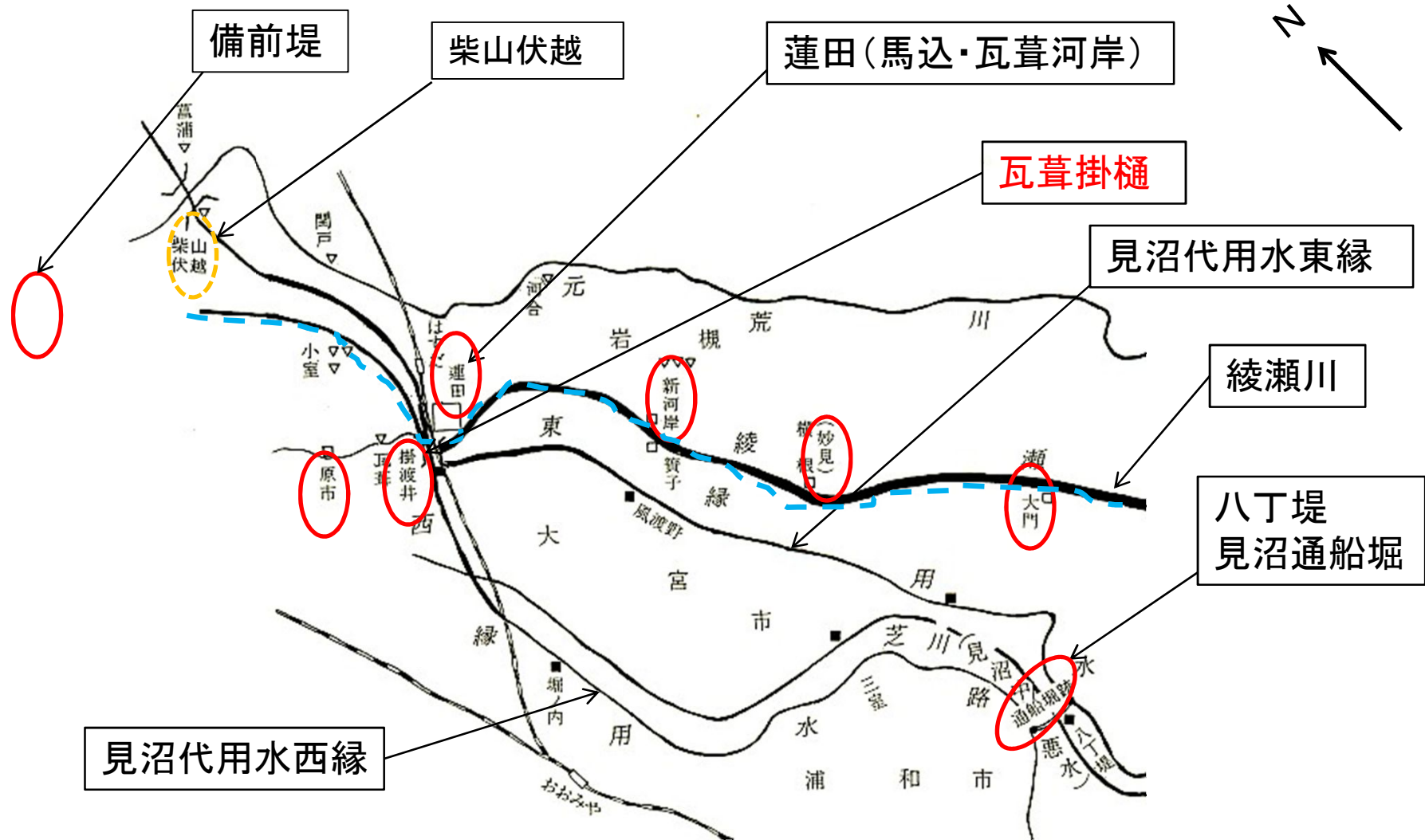
起点の標石 (1988) 備前堤の全景 下流側より展望(1988)



綾瀬川起点

綾瀬川上流の河岸と見沼代用水の関係

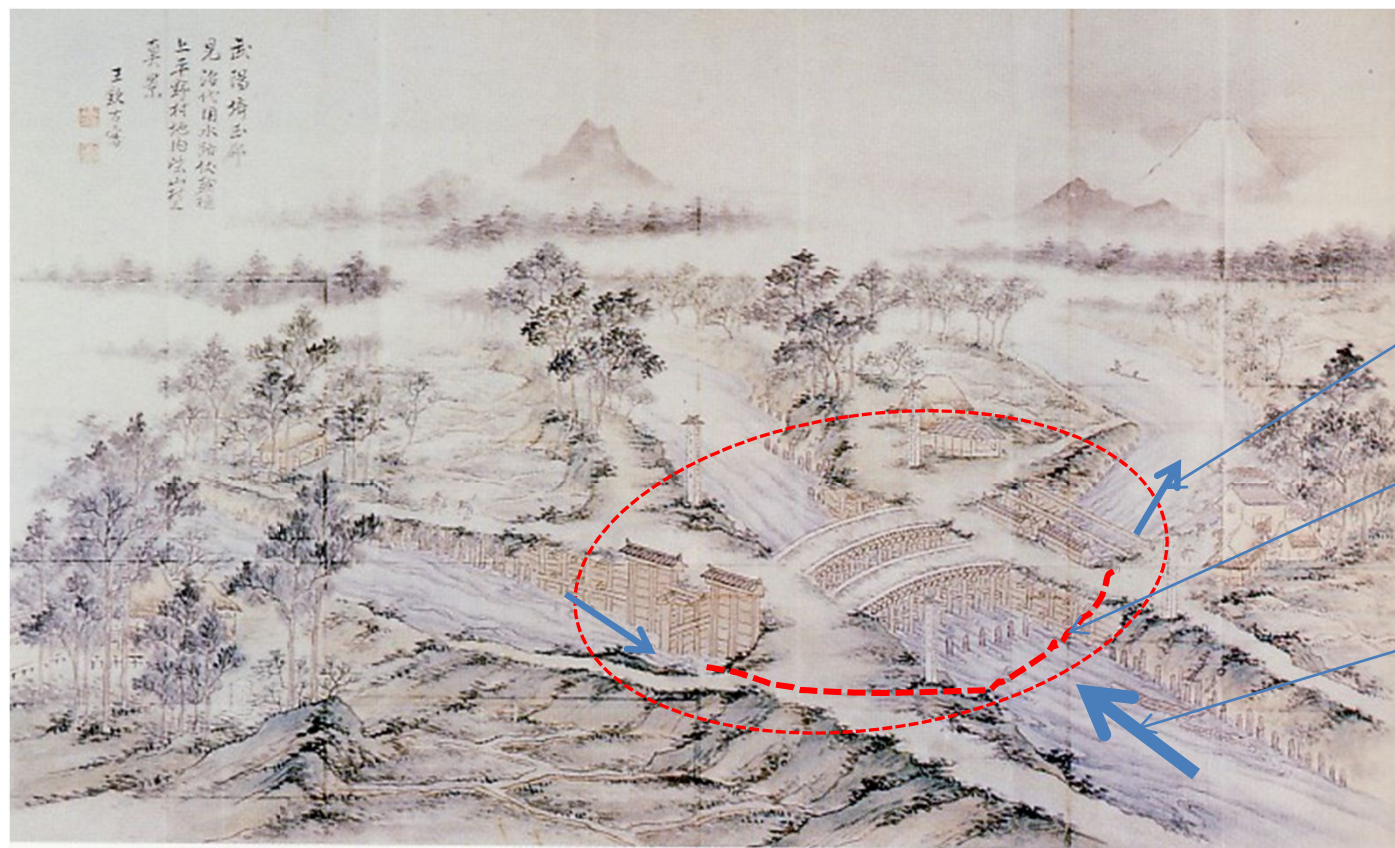
綾瀬川舟運関係資料について(1993)に加筆



綾瀬川・瓦葺掛樋図 江戸時代



見沼代用水・柴山伏越図 江戸時代



見沼代用水

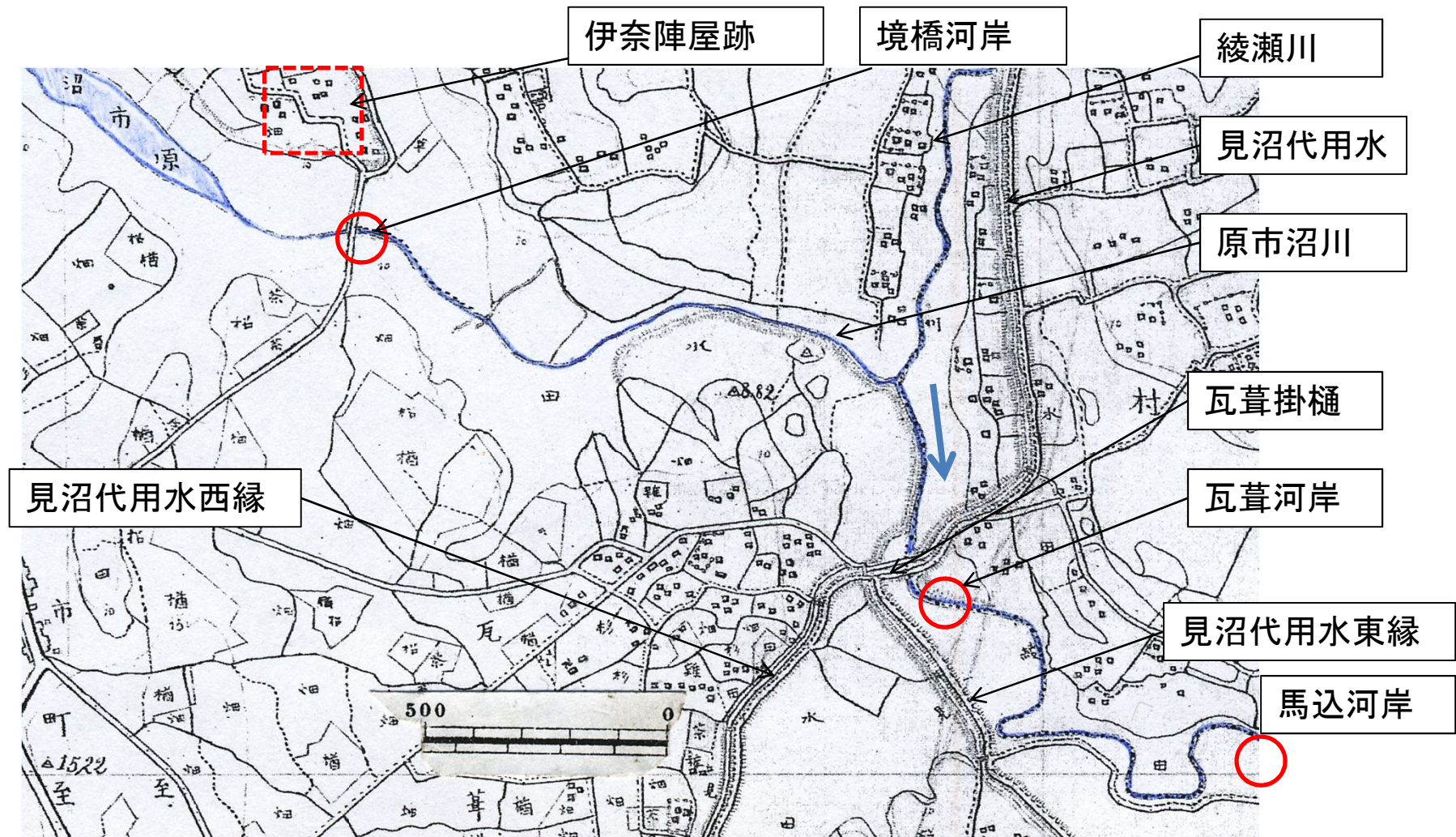
伏越部分

元荒川

柴山伏越古図（埼玉県立博物館蔵）

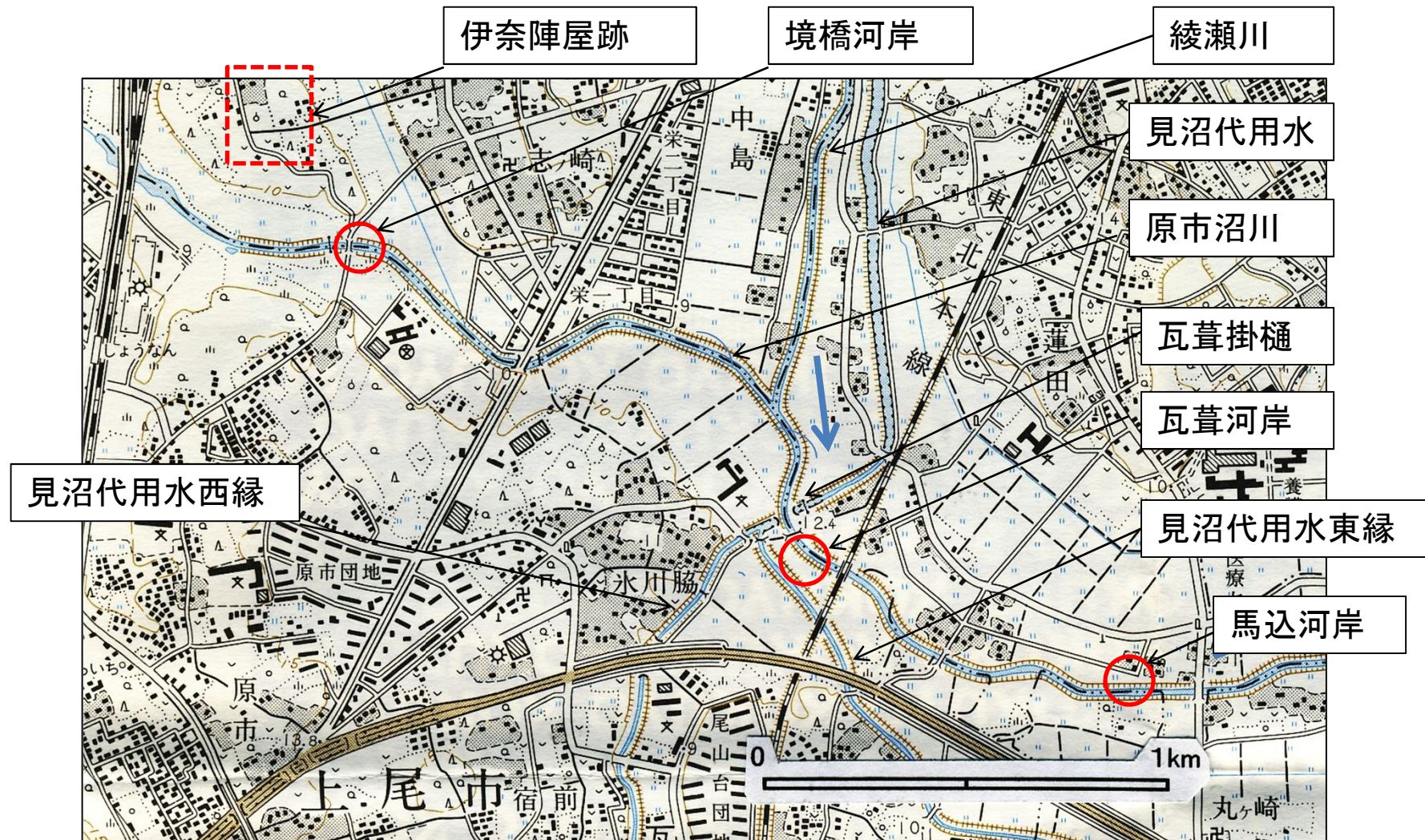
見沼土地改良区史より

境橋・馬込河岸跡 2万分の1 1880年(明治13)



境橋・馬込河岸付近

2万5千分の1 1984年(昭和59)



境橋河岸付近の様子

境橋(原市)河岸 (2009)



境橋上流の用水堰 (2009)



伊奈小室陣屋の跡

伊奈陣屋の説明板 (2009)



小室伊奈陣屋跡 (2009)



馬込・瓦葺河岸・風間河岸

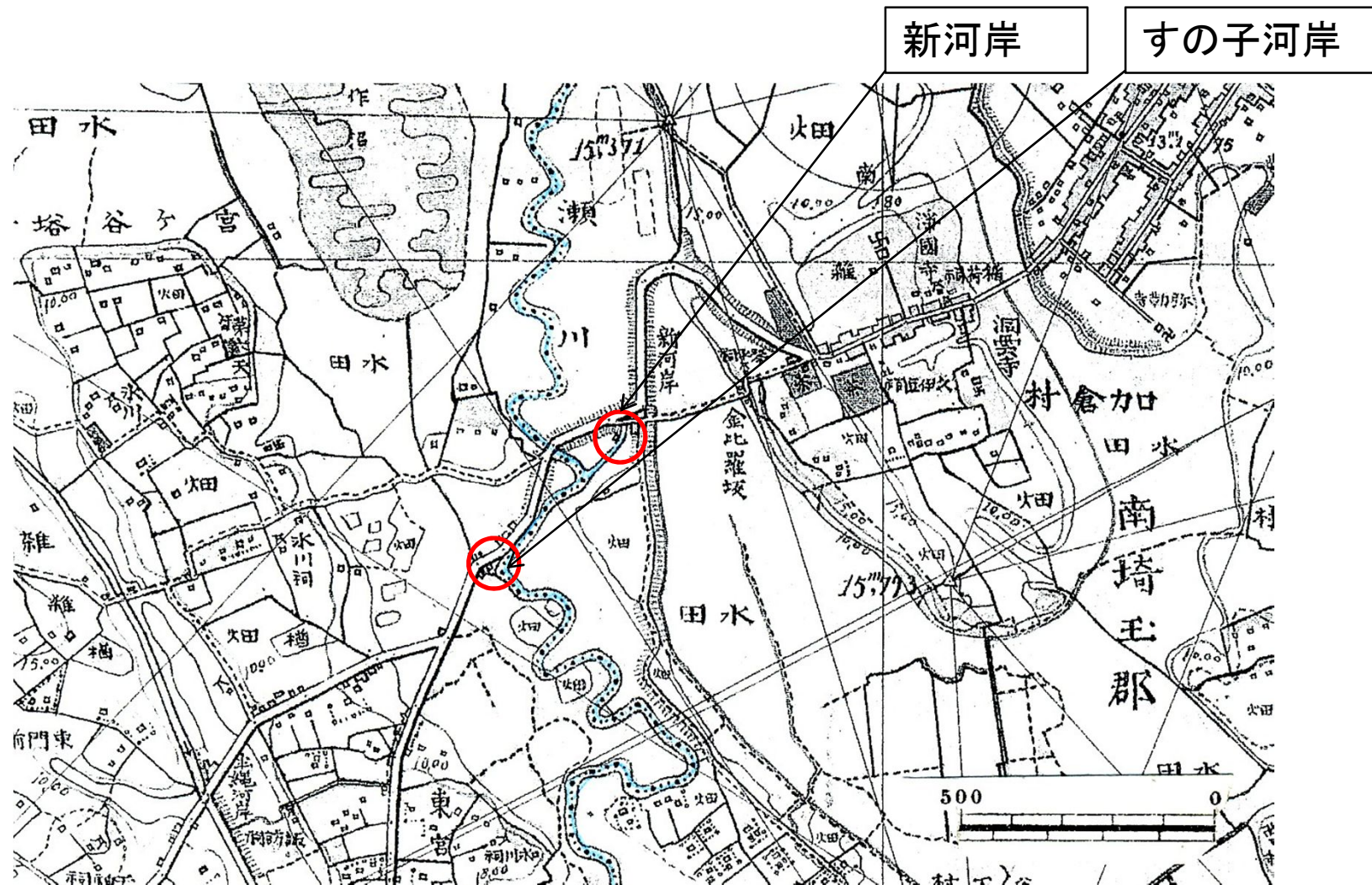
瓦葺河岸 (2009)



風間河岸 (2009)

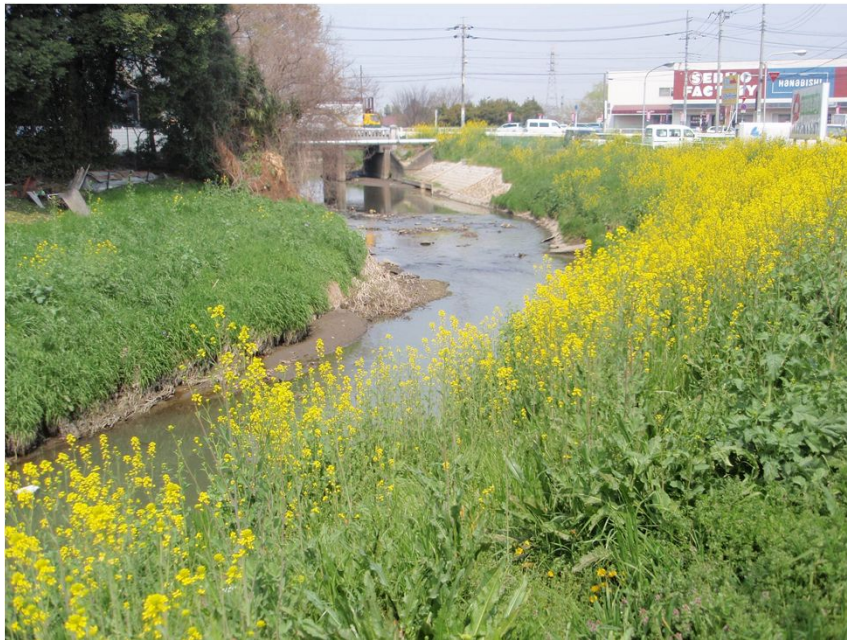


新河岸付近の河岸跡 2万分の1 1880年(明治13)



新河岸(岩槻)と すのこ河岸

新河岸・宮ヶ塔河岸 (2009)



すのこ河岸 (2009)

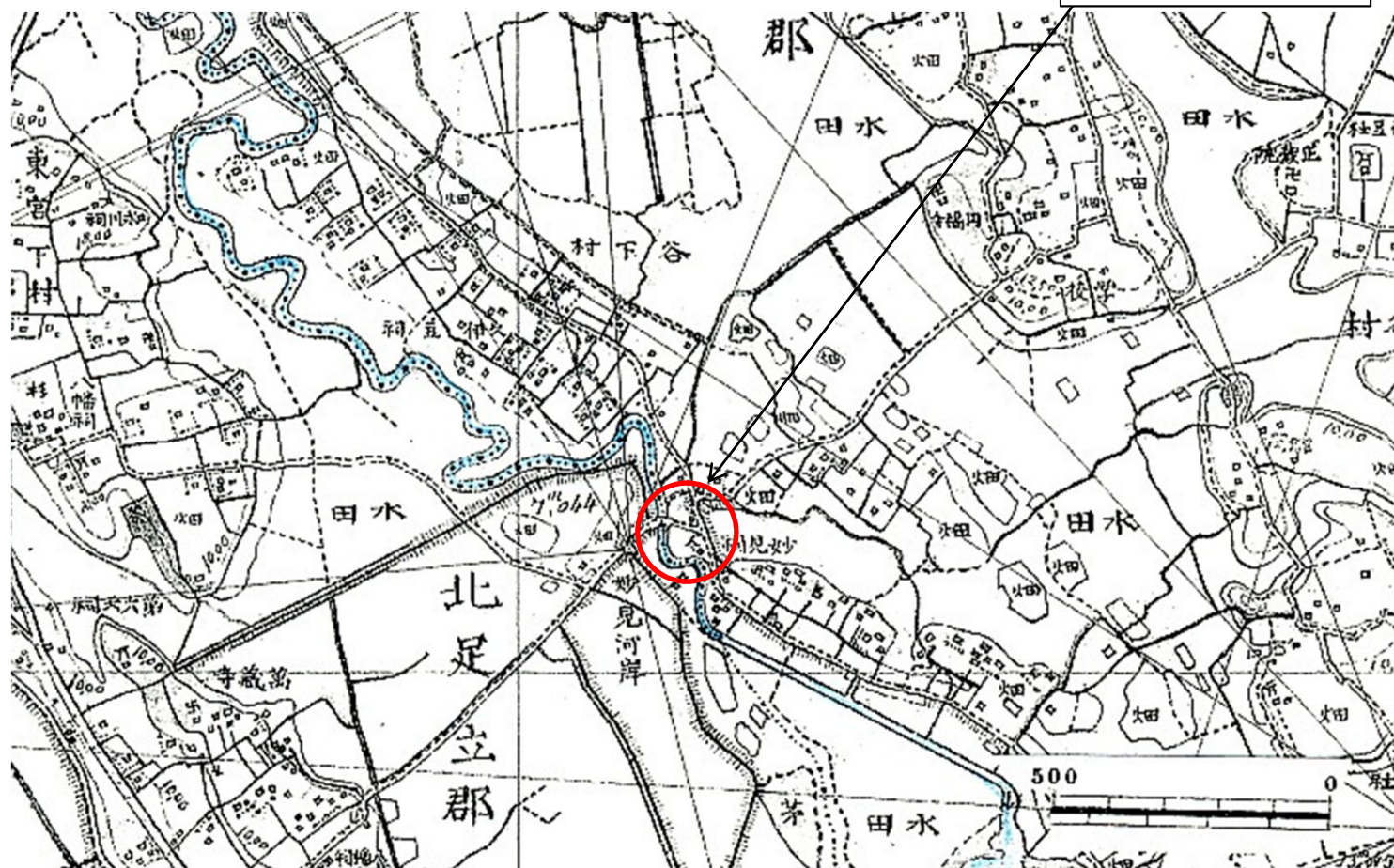


中流域の河岸の位置図 1/20万地勢図に加筆



妙見河岸跡 2万分の1 1880年(明治13)

1 妙見河岸



妙見河岸付近の現況写真(岩槻藩10万石の年貢米積み出し港)

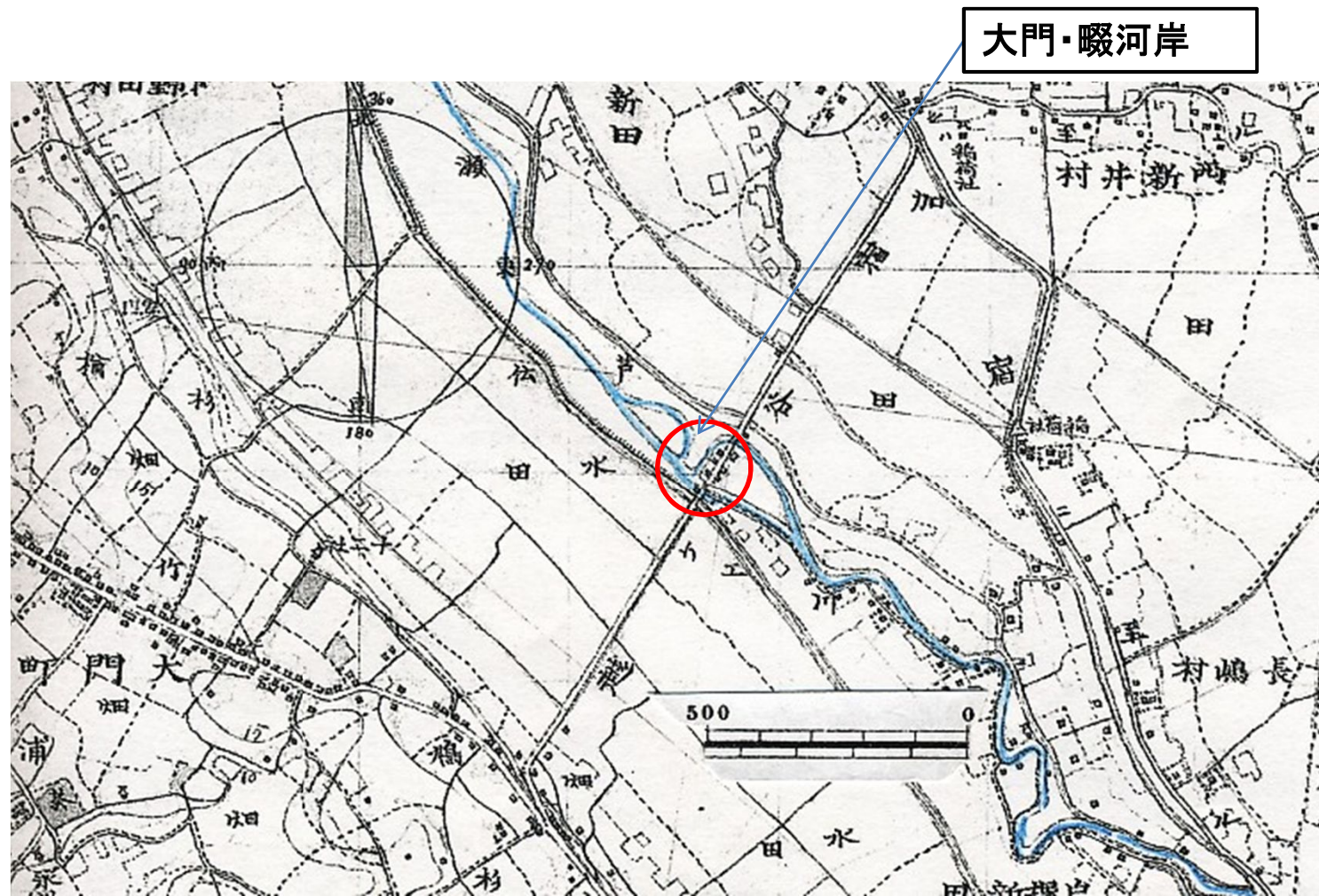
妙見橋より下流側(2009年)



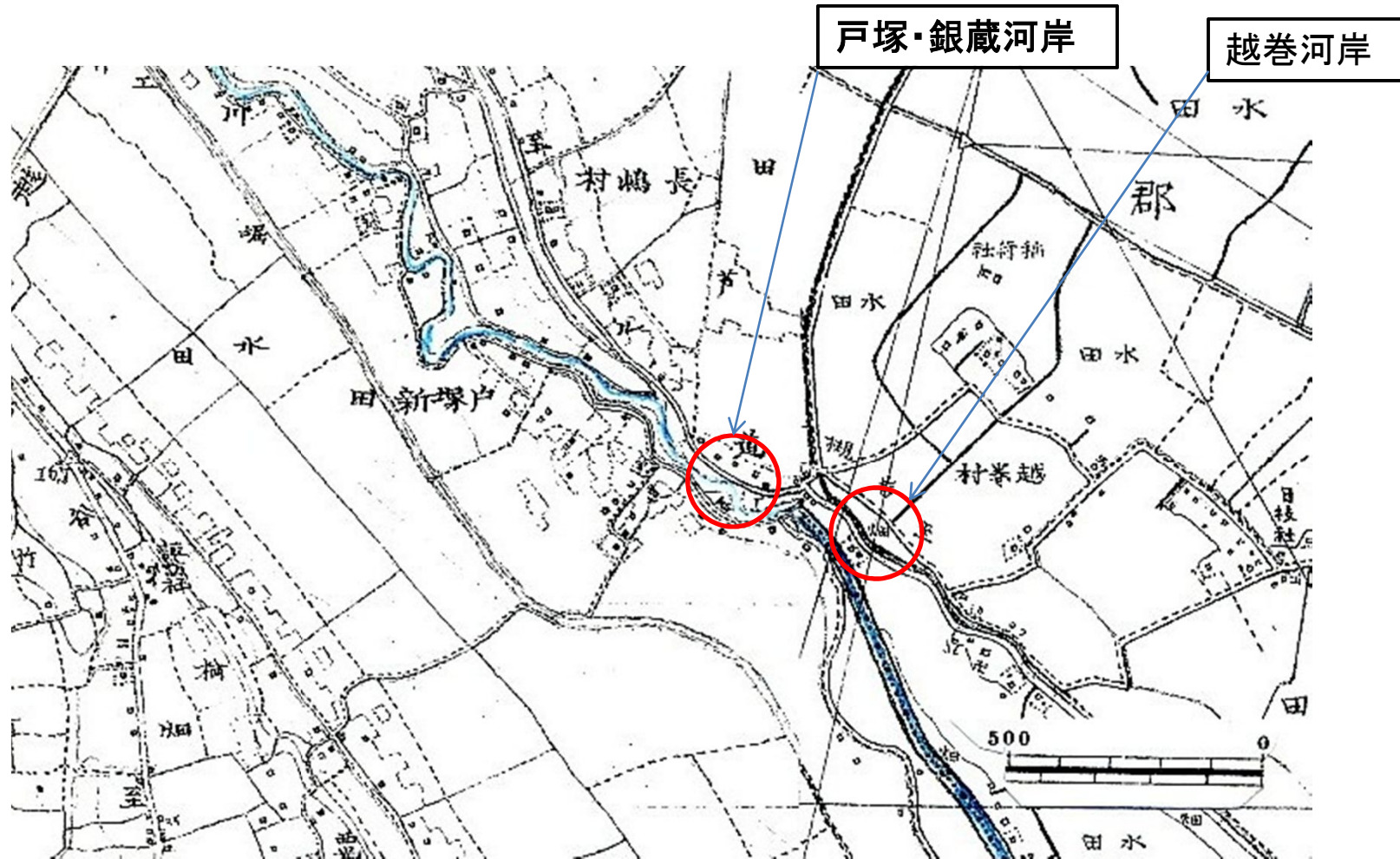
妙見神社(2009年)



大門・暇河岸跡 2万分の1 1880年(明治13)



戸塚・銀蔵河岸跡 2万分の1 1880年(明治13)



大門・啜河岸と戸塚・銀蔵河岸(最大の河岸)

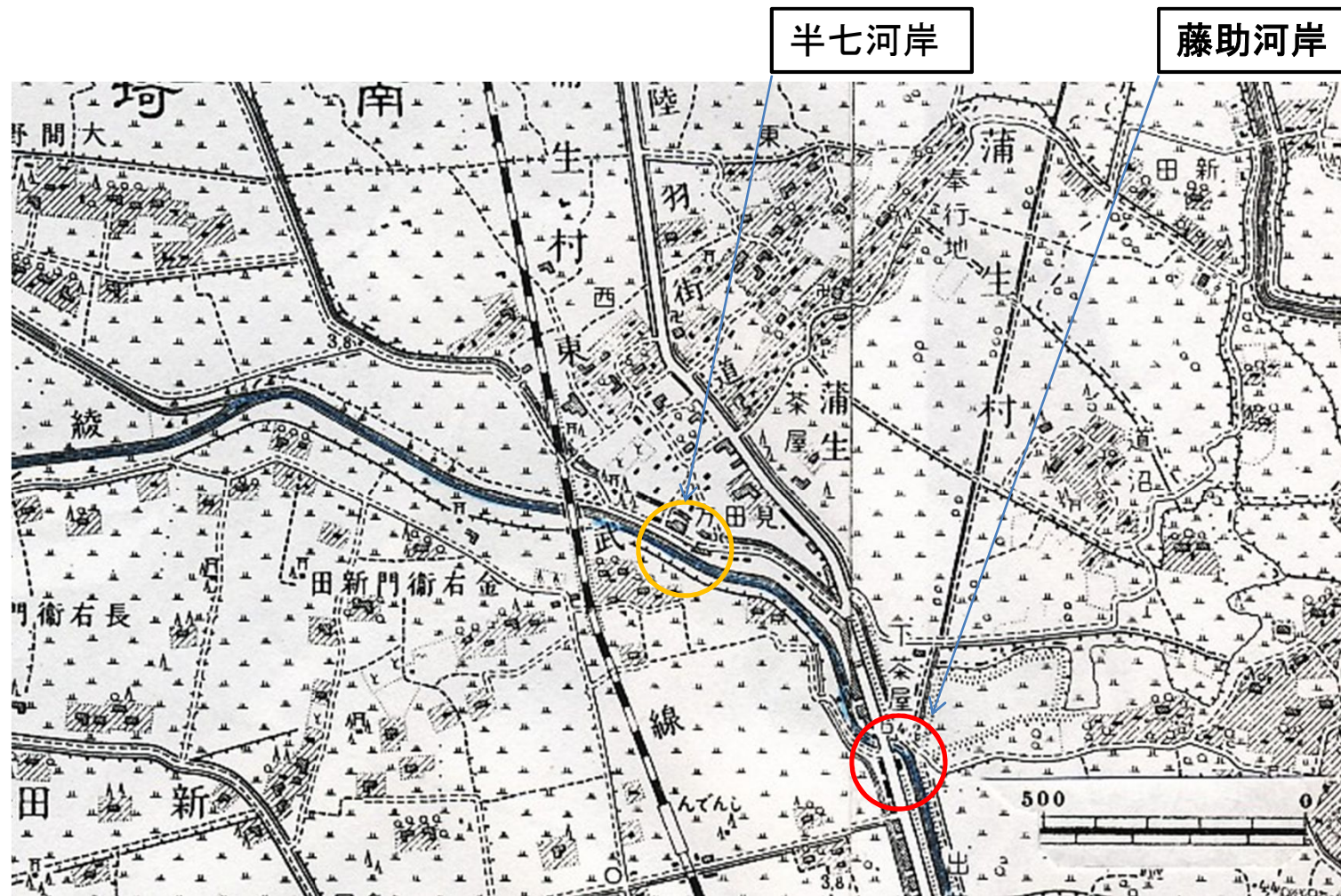
大門・啜河岸跡(2009年)



戸塚・銀蔵河岸跡(2009年)



藤助河岸跡 2万分の1 1910年(明治43)



蒲生・藤助河岸周辺の状況

改修前の藤助河岸(1987年)



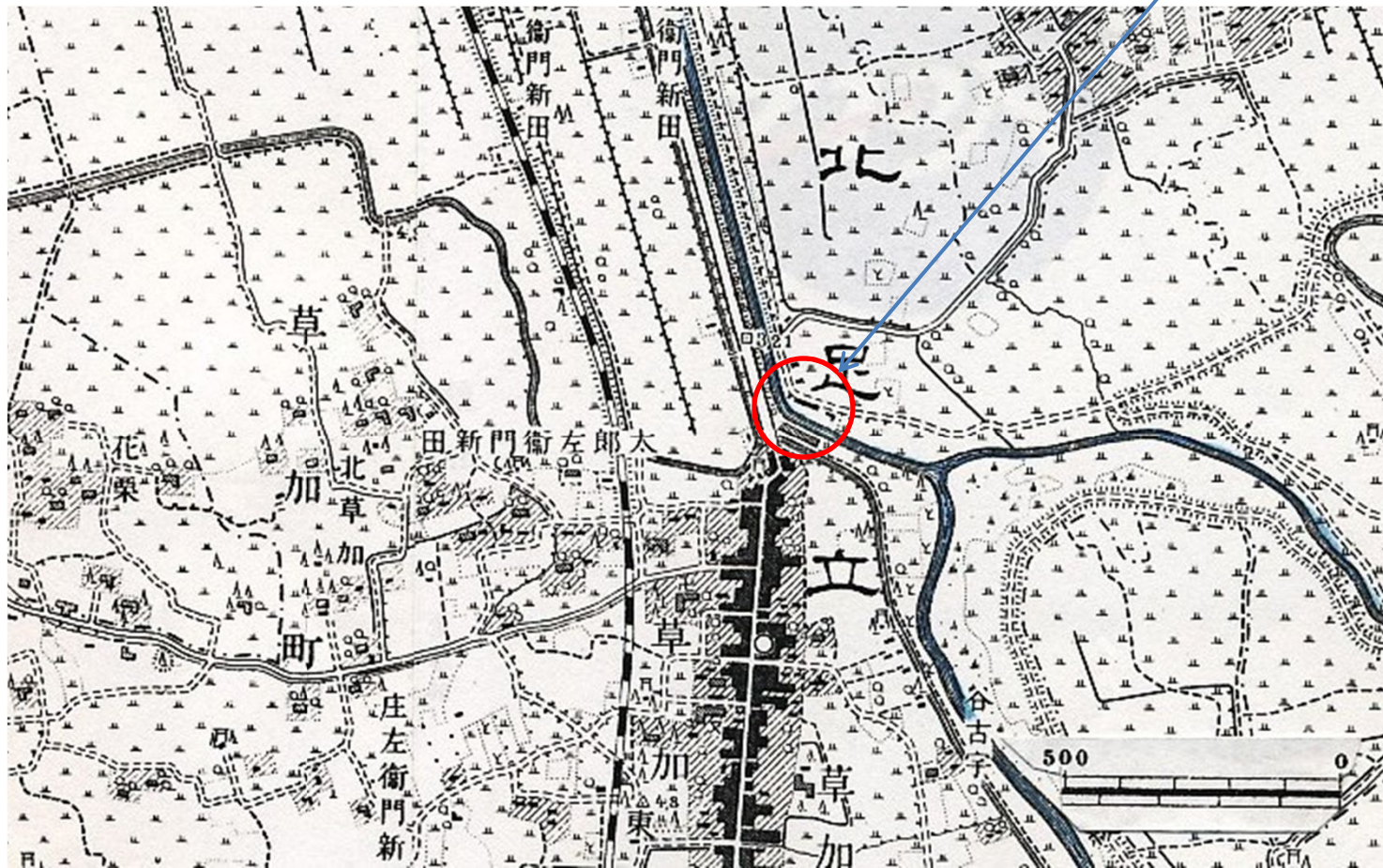
改修後の藤助河岸(2009年)



甚左工門(札幌・谷古宇)河岸跡

2万分の1 1910年(明治43)

甚左衛門河岸



甚左衛門(札幌、谷古宇)河岸跡の現状

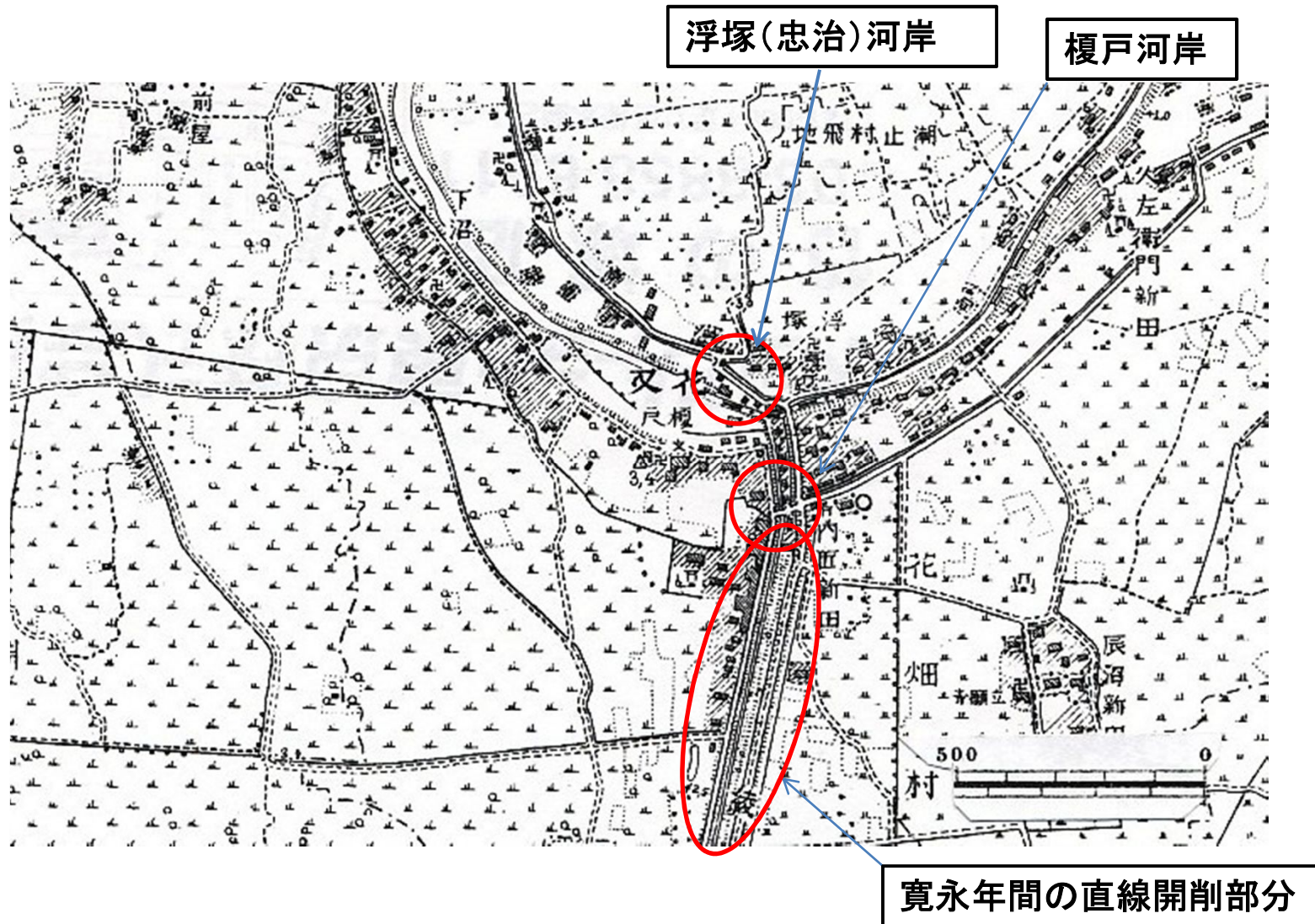
甚左衛門河岸の常夜灯(2009年)



甚左衛門河岸を上流より(2009年)

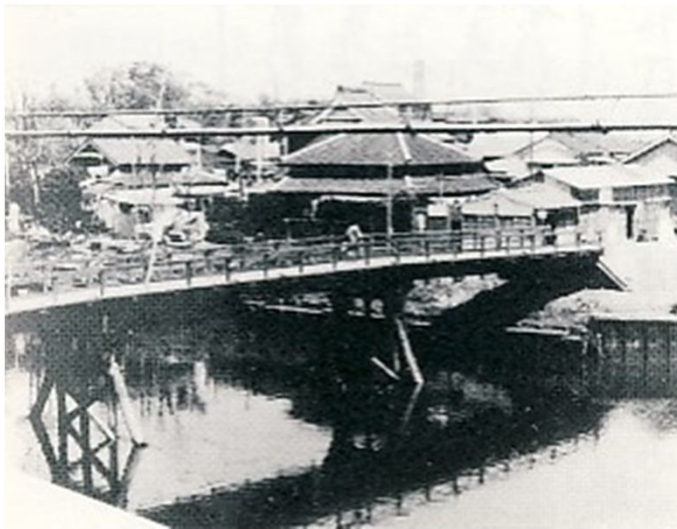


榎戸(内匠)・浮塚(忠治) 2万分1 1910年(明治43)



榎戸河岸、内匠橋の今昔の様子

内匠橋 1947年(昭和22)

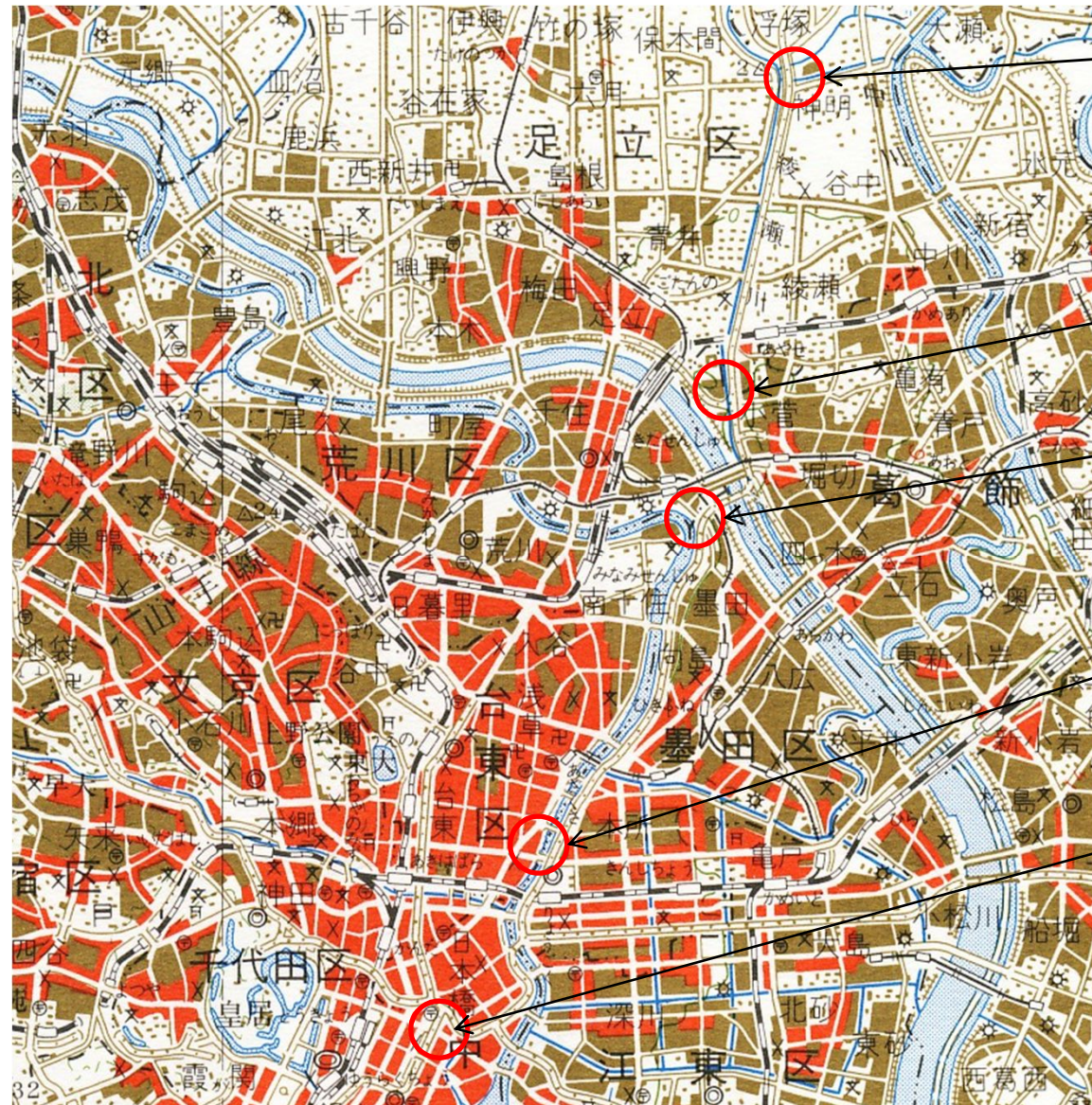


内匠橋 2002年(平成14)



ブックレット足立風土記より

下流域の河岸の位置図 1/20万地勢図に加筆



榎戸・浮塚河岸

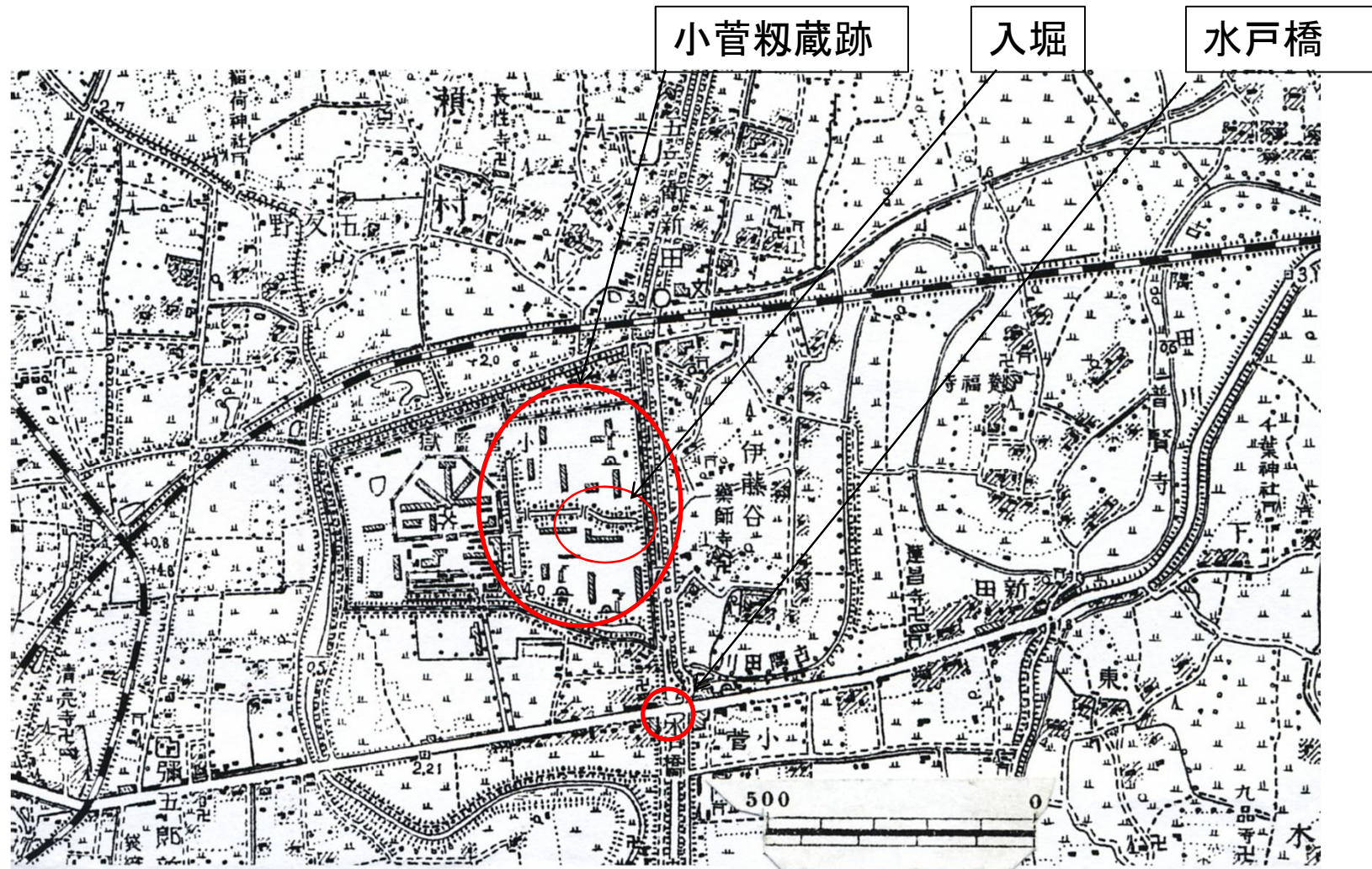
水戸橋河岸
小菅粉蔵

綾瀬橋

浅草御蔵

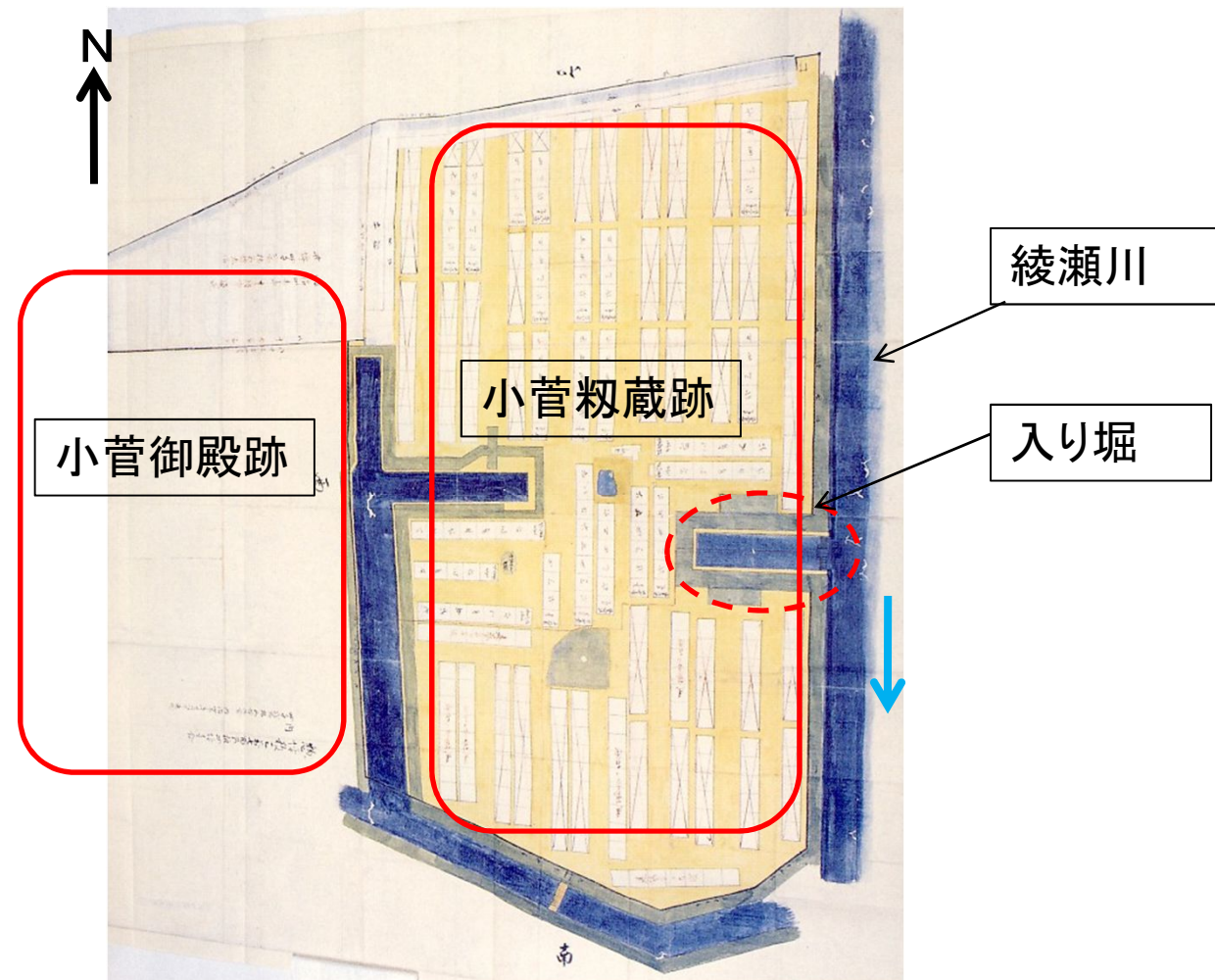
日本橋伊勢町
米河岸

水戸橋付近 2万分の1 1910年(明治43)



小菅粃蔵 絵図

1871年(明治4)時点
小菅粃蔵関係文書より

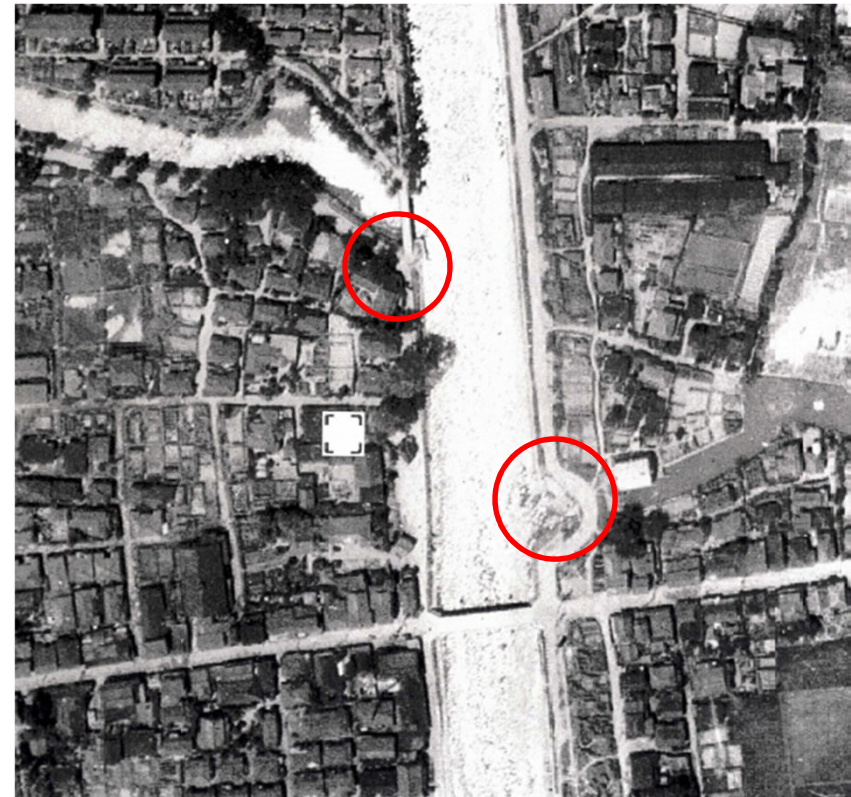


水戸橋上流右岸付近の船溜り 1960年代

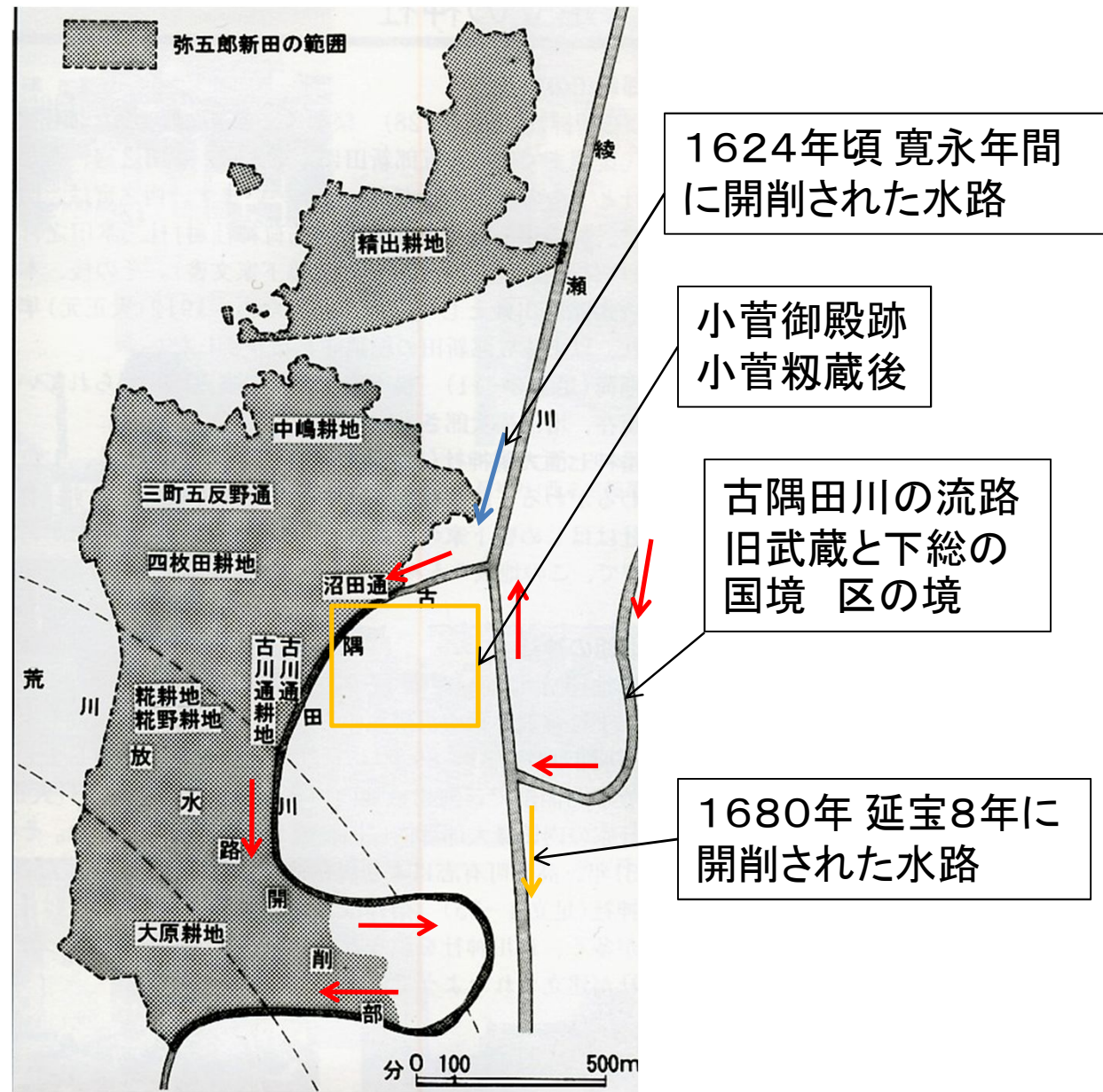
水戸橋付近の河岸
(1960年頃) 西小菅自治会提供



水戸橋付近航空写真 1947(昭和22)
河岸の想定位置 goo地図より



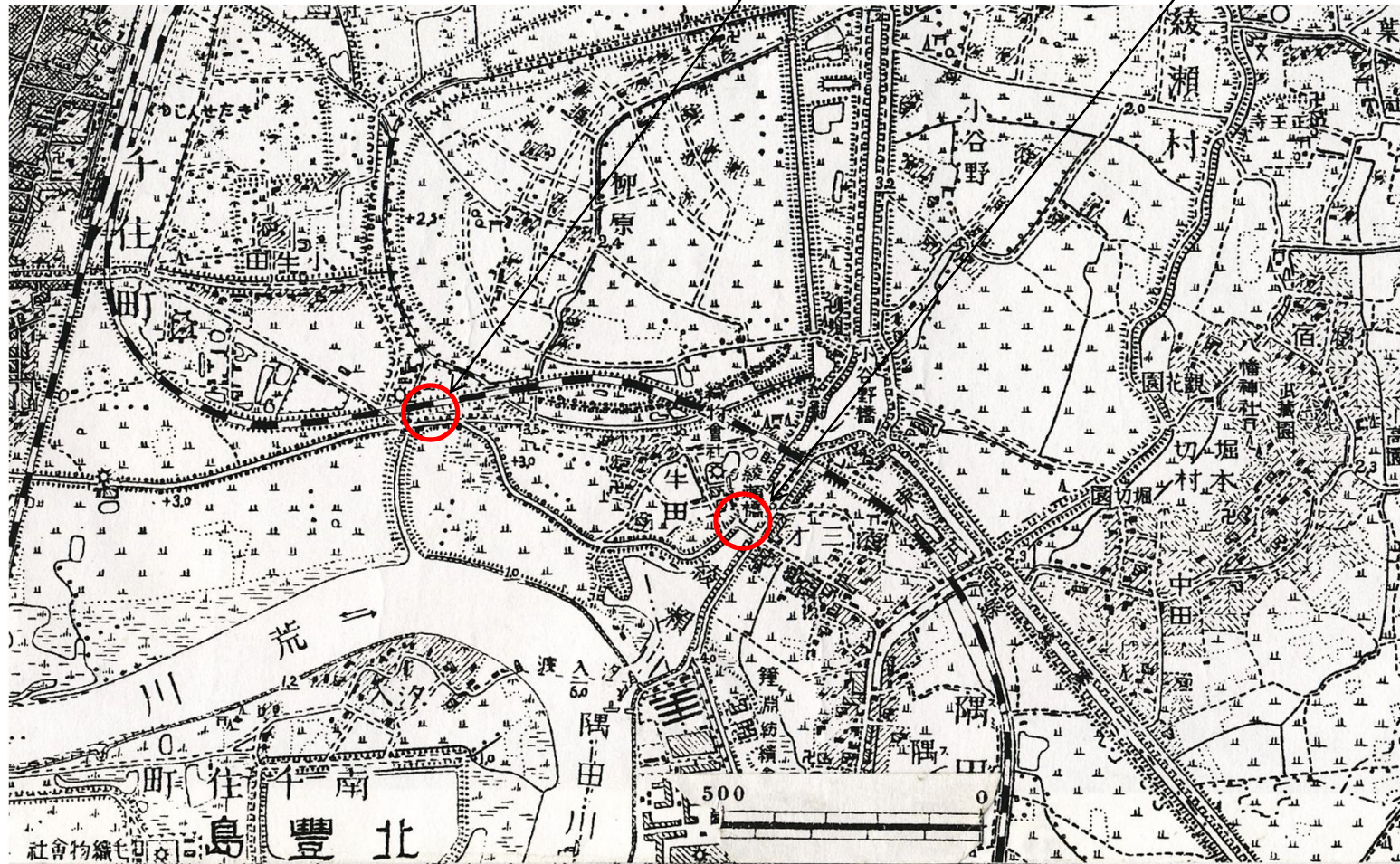
小菅付近 の河川の 改修状況 ブックレット足 立風土記の図 に加筆



綾瀬橋付近 2万分の1 1910年(明治43)

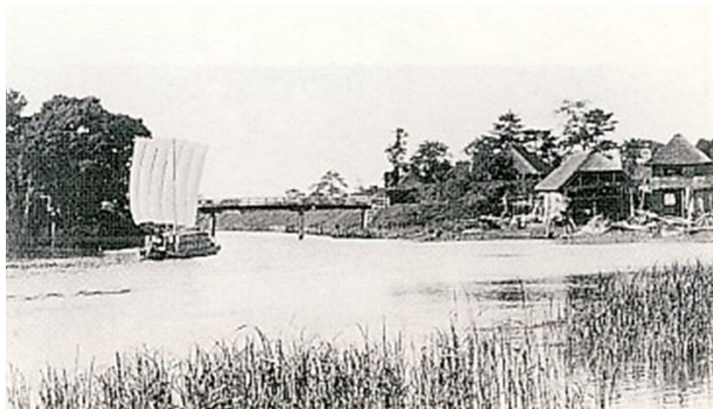
東武線牛田駅付近

綾瀬橋



綾瀬橋付近の風景

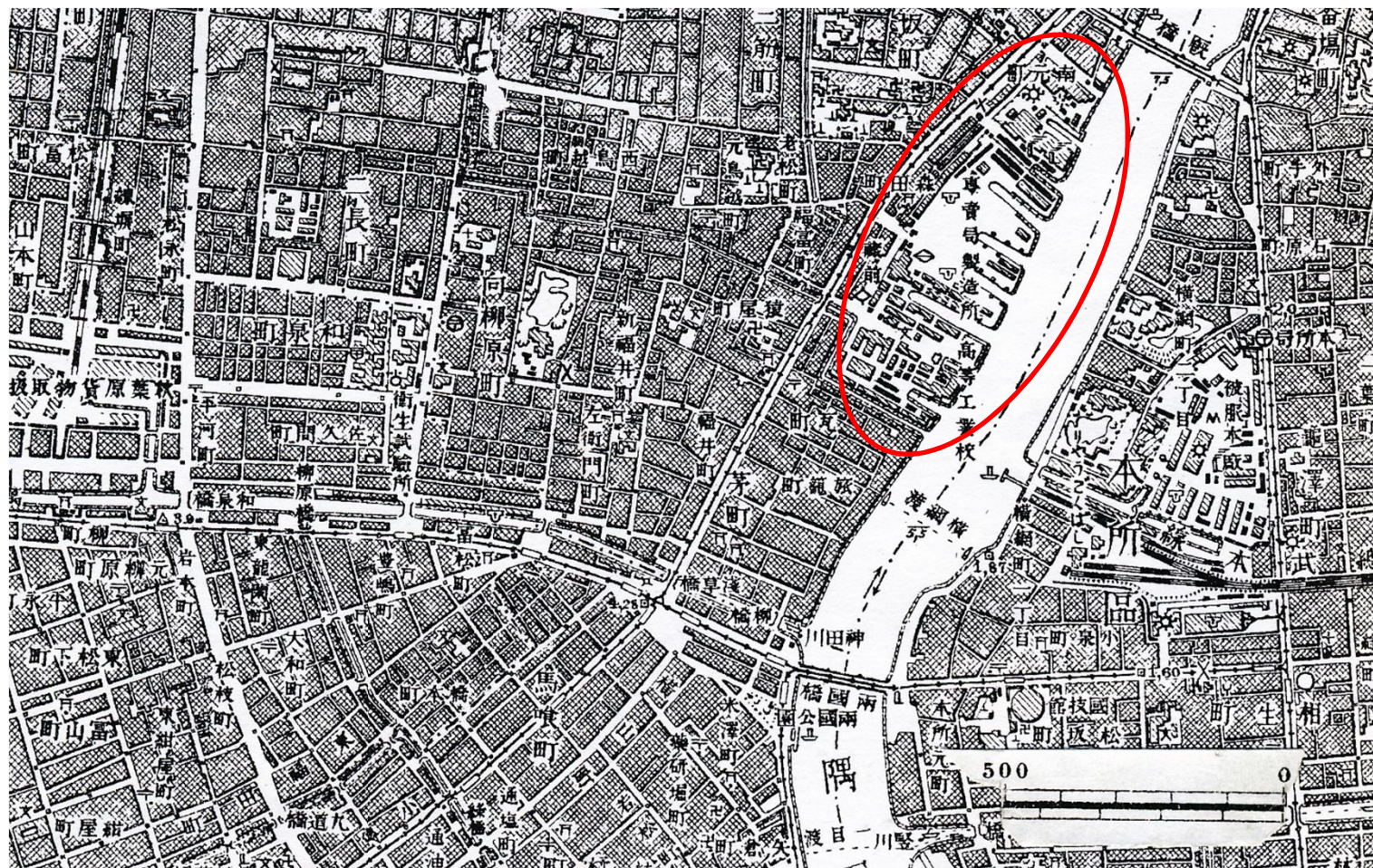
綾瀬橋付近を遡る肥舟 明治40年頃
足立ブックレットより



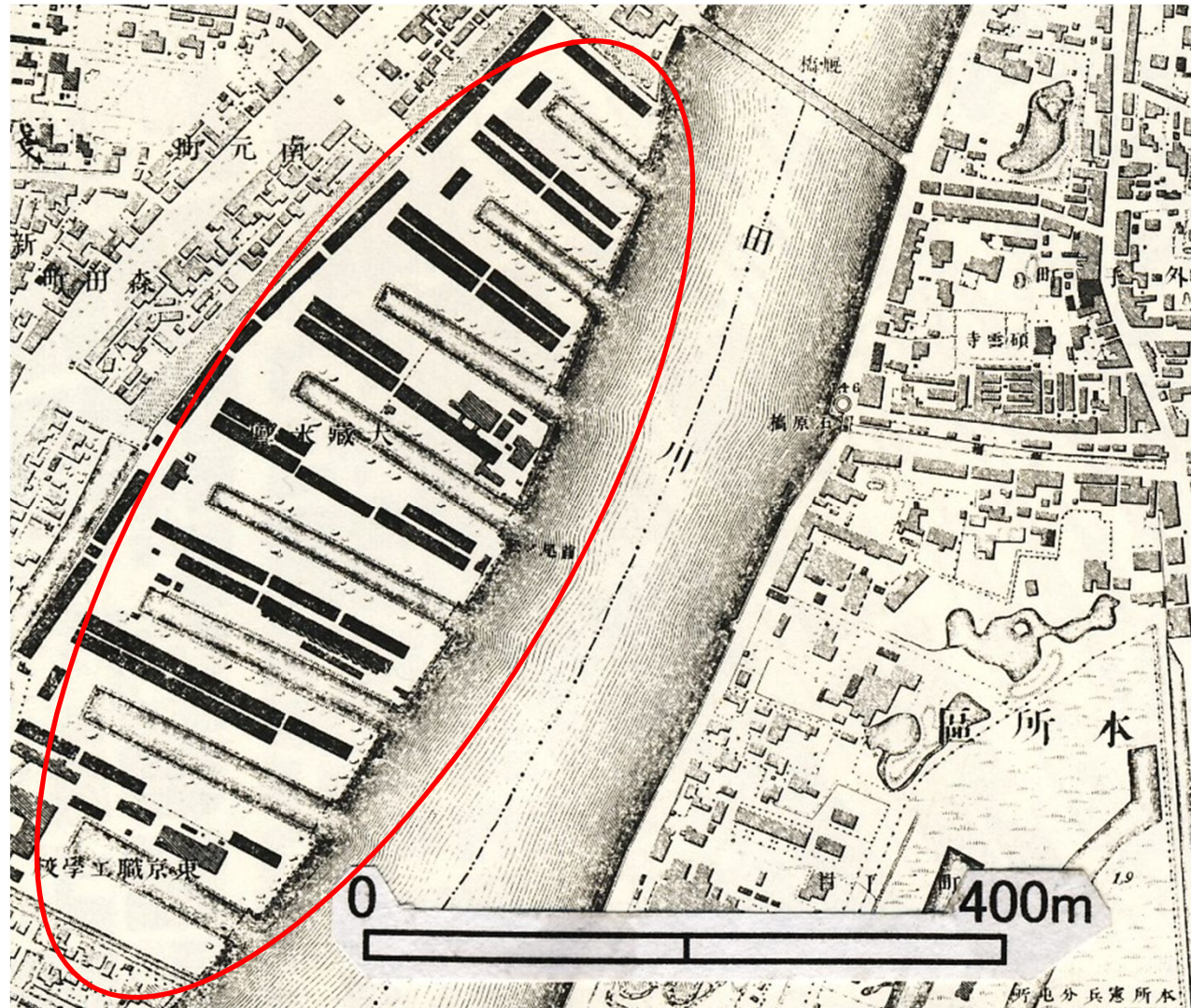
汐入の渡し舟 1961年(昭和36)
東京慕情より



蔵前付近 2万分の1地形図 1910年(明治43)

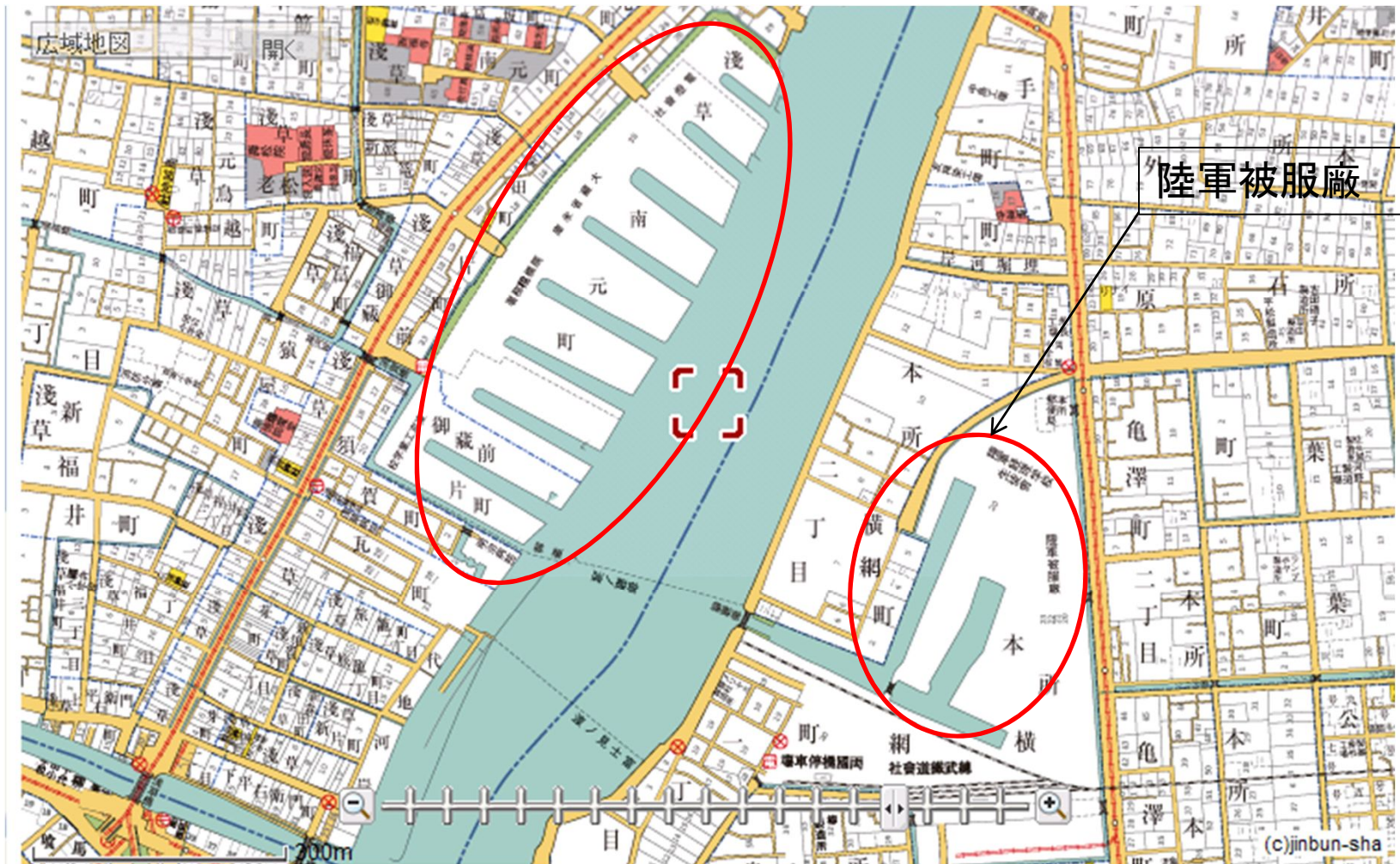


浅草・蔵前の御蔵(米蔵) 1884年(明治17)

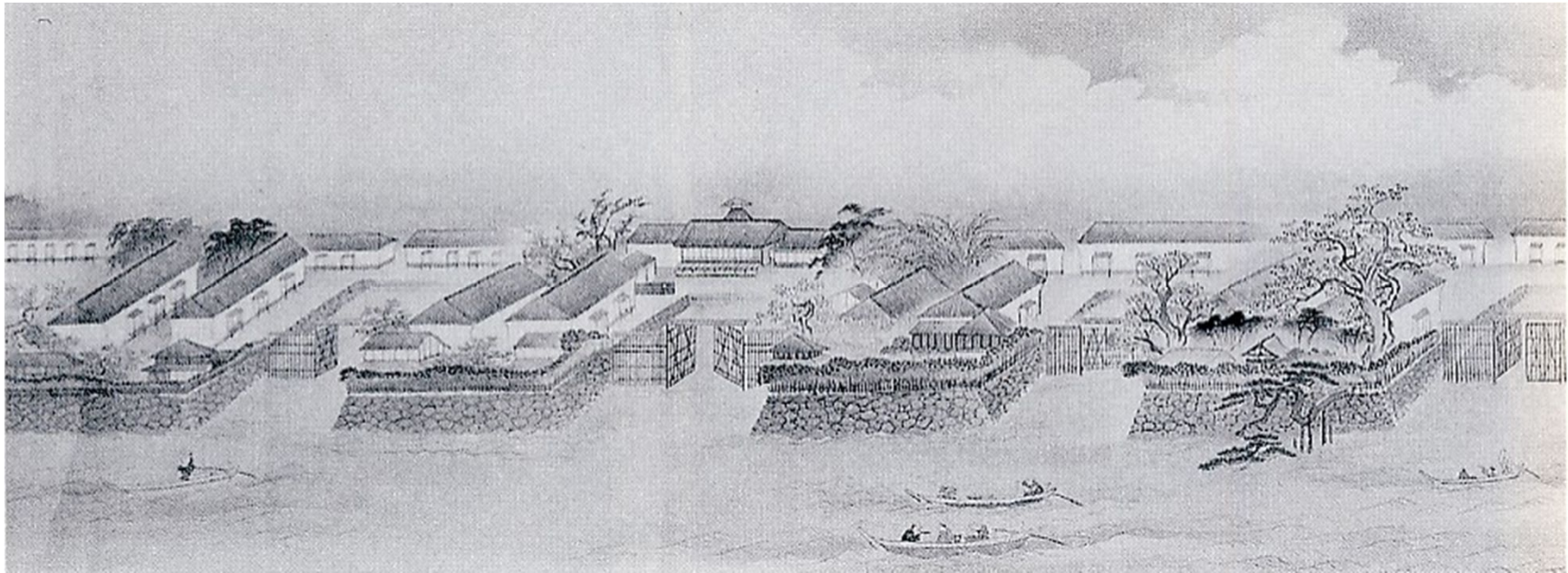


浅草・蔵前の御蔵付近 1907年(明治40)

goo地図より



浅草御蔵 南側 1770年頃(明和頃)
蔵前に札差あり より



浅草御蔵跡

浅草御蔵の碑 (2009)

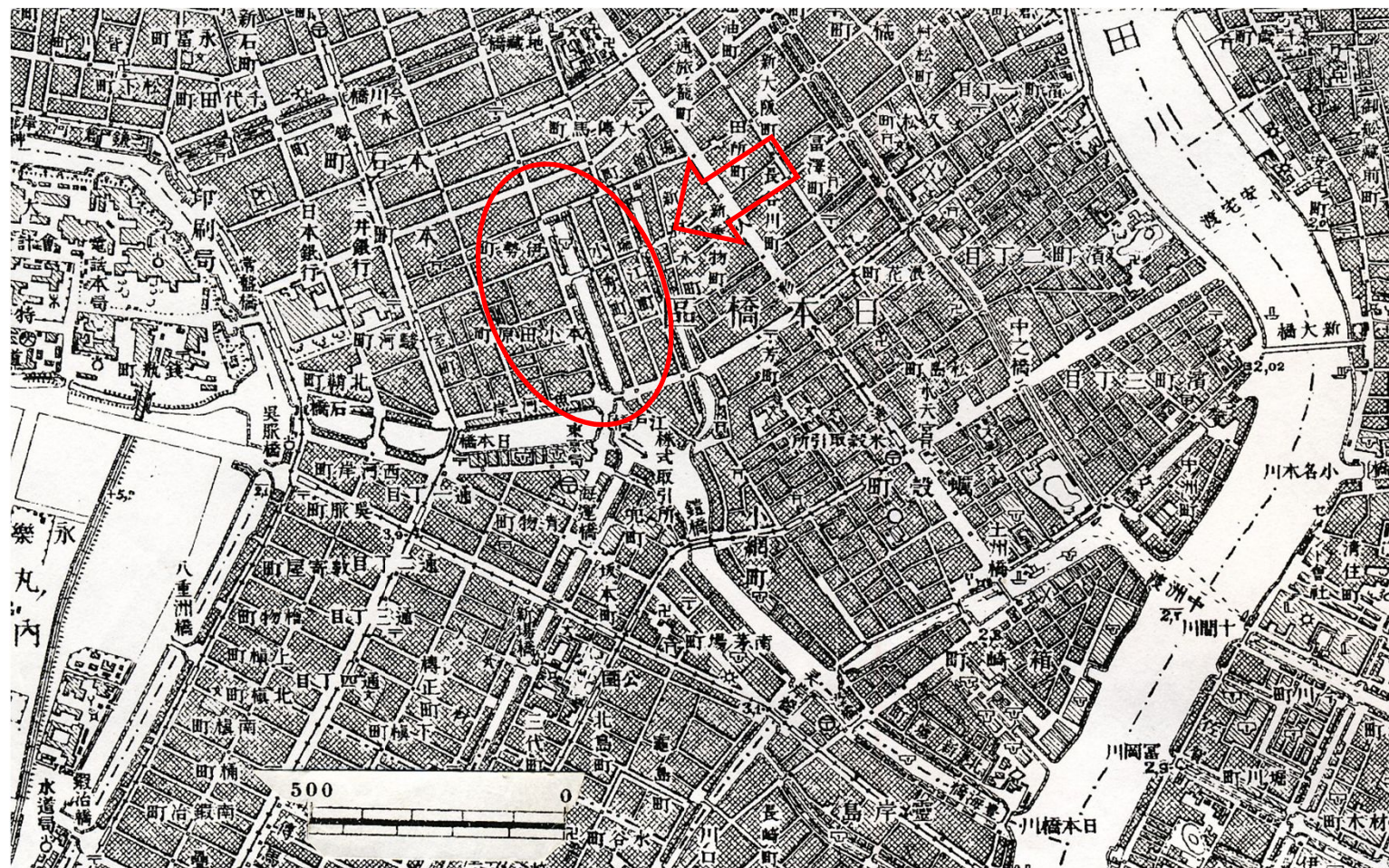


対馬藩お舟江(2009)

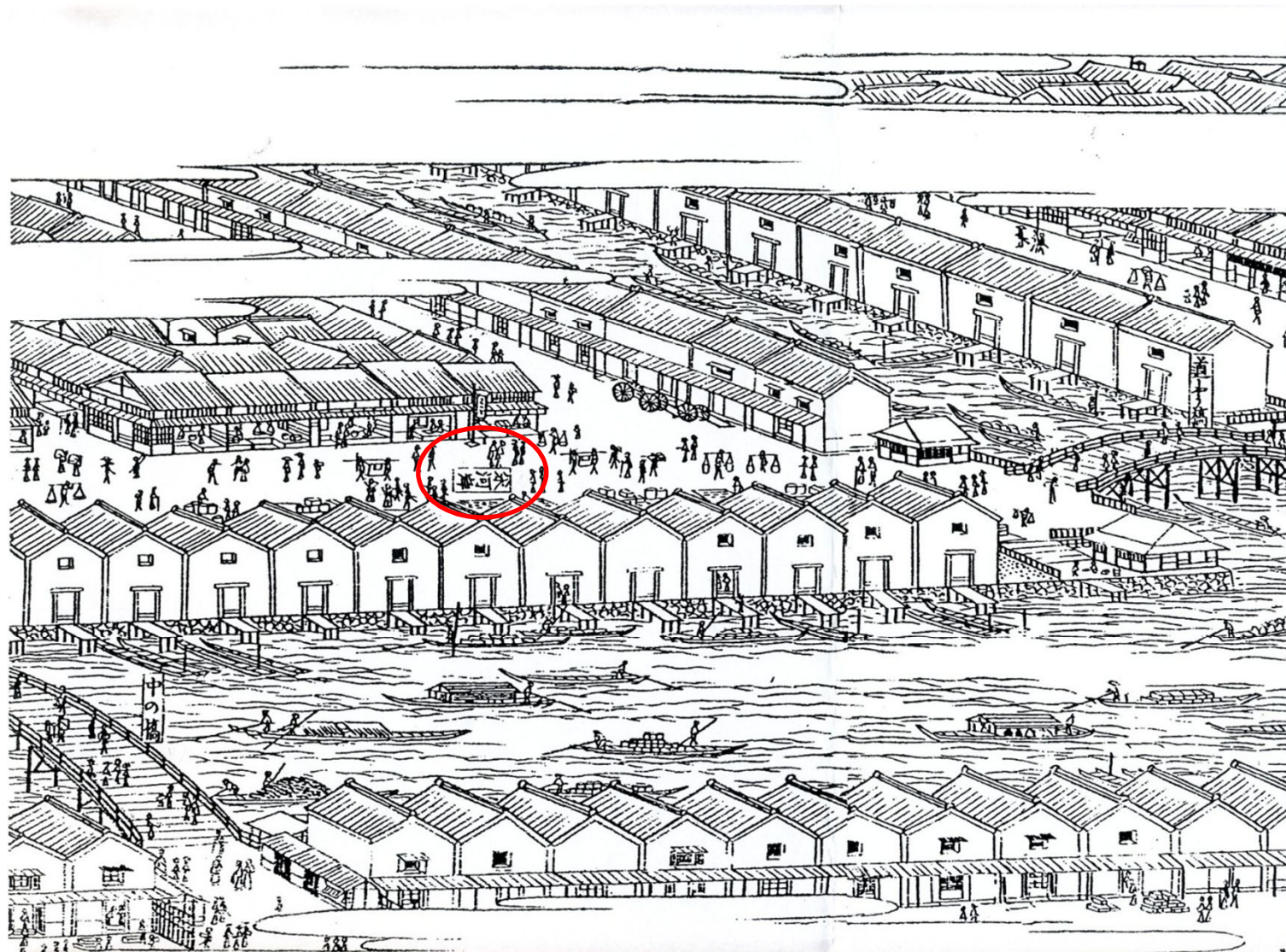
厳原郷土資料館資料より



日本橋付近 2万分の1 1910年(明治43)



日本橋 米河岸の鳥瞰図 江戸名所図会



日本橋 伊勢町 米河岸の概略図

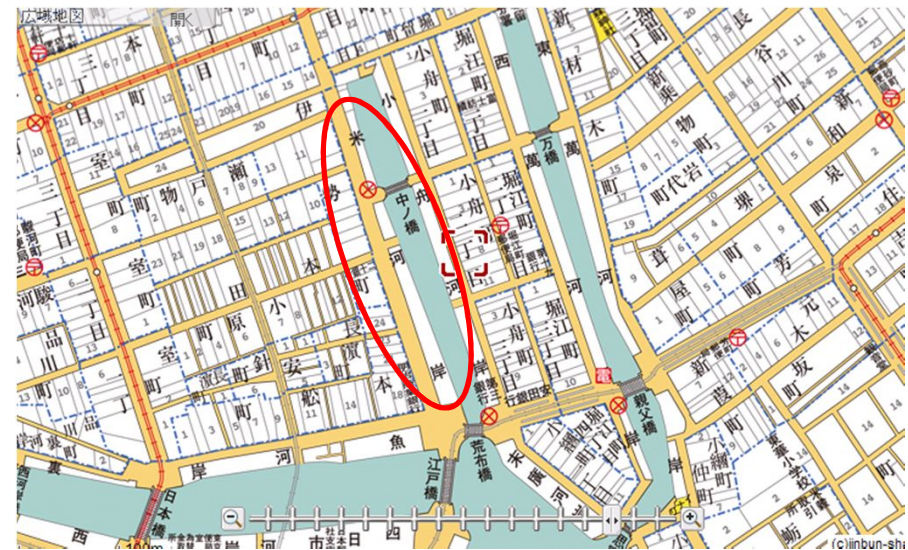
米河岸の地図（江戸時代）

東京都印刷工業組合HPより



米河岸の地図 1907年(明治40)

goo地図より



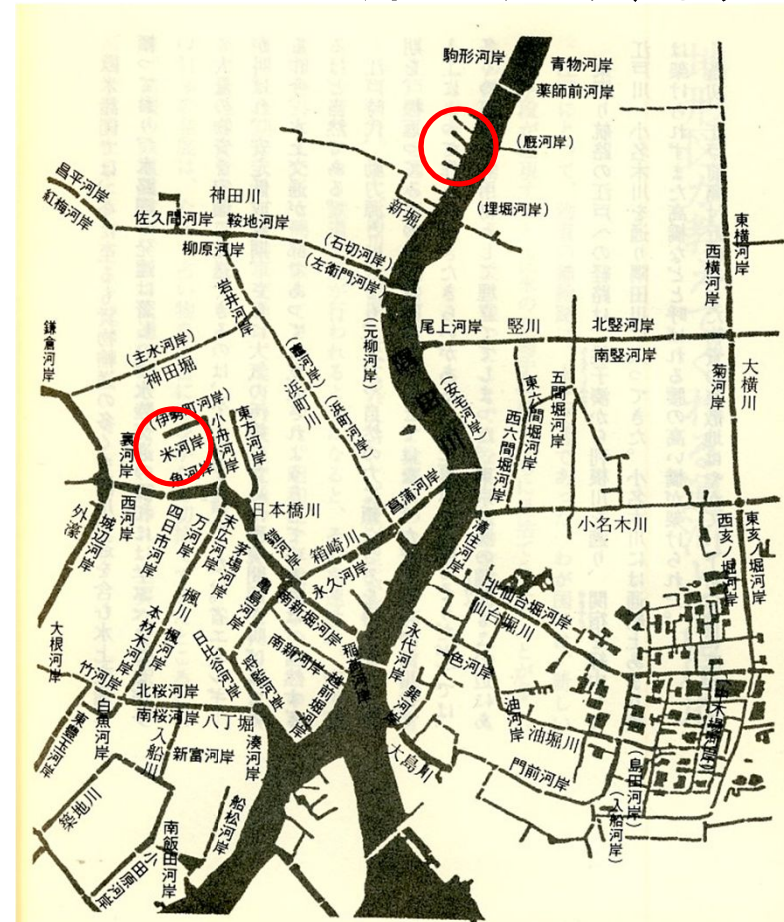
江戸の河岸場の分布図 明治期

日本橋伊勢町 米河岸 明治期
ビジュアル ブック江戸東京5 水の東京より



江戸の河岸名と掘割

川がつくった江戸より



綾瀬川流域の河岸の分布 江戸時代 日本産業大系関東地方より



綾瀬川の河岸関係文献リスト(総集編)

2009.12.10

NO	資料名	発行年	発行年	著作者／編集者	発行者／出版社
1	日本図誌大系関東 I 地形図	1971	昭和 46	山口恵一郎他	朝倉書店
2	2万分 迅速図	1880	明治 13	帝国陸軍 陸地測量部	帝国陸軍 陸地測量部
3	2万分 地形図	1910	明治 43	帝国陸軍 陸地測量部	帝国陸軍 陸地測量部
4	利根川治水の変遷と水害	1981	昭和 56	大熊孝	東京大学出版会
5	水の東京ビジュアルブック5	1993	平成 5	陣内秀信	岩波書店
6	ブックレット 足立風土記	2002	平成 14	足立区立郷土博物館	足立区教育委員会
7	綾瀬川舟運関係資料について	1993	平成 57	埼玉県立博物館研究紀要18	埼玉県立博物館
8	蔵前に札差あり	1999	平成 11	台東区文化財保護審議会	台東区教育委員会
9	歴史の道調査報告書第14集 綾瀬川の水運	1991	平成 3	埼玉県教育委員会	埼玉県政情報資料室
10	小菅初蔵関係文書	1991	平成 4	葛飾区郷土と天文の博物館	葛飾区郷土と天文の博物館
11	東京慕情	2008	平成 20	田中哲男	東京新聞出版局
12	江戸名所図会				
13	日本橋伊勢町米河岸 地図	2009	平成 21	東京都印刷工業組合 日本橋支部ホームページ	
14	20万分の1 地勢図	1987	昭和 62	国土地理院	国土地理院
15	2万5千分の1 地形図	1988	平成 52	国土地理院	国土地理院
16	水戸橋付近の写真			西小菅自治会提供	
17	見沼土地改良区史	1988	昭和 63	見沼土地改良区	見沼土地改良区
18	写真で見る江戸東京	1992	平成 5	芳賀徹他	新潮社
19	洪水地形分類図	1988	平成 52	国土地理院	国土地理院
20	川がつくった江戸	1990	平成 2	林 英夫他	隅田川文庫

綾瀬川の河岸場跡を訪ねて 統合版 01 09. 12. 08

01 タイトル 日本橋伊勢町にあった米河岸の様子

02 綾瀬川舟運関係広域図 綾瀬川の河岸場跡を訪ねての「その1」では岩槻妙見河岸の上流は調査対象からはずした。その後、新しい河岸場資料が入手できたので、これらをまとめて報告する。綾瀬川の舟運の最大の特徴は、年貢米の輸送に使用されたところである。

・地図上の各地点の説明

1,備前堤(現綾瀬川の起点) 2,綾瀬川支流 原市沼川の境橋河岸と伊奈陣屋跡
3,岩槻 新河岸(大橋井堰)この下流1.5kmに4,妙見河岸がある。5,大門・暇河岸、
6,は戸塚・銀蔵河岸、近くの安行には伊奈氏の赤山陣屋がある。7,蒲生には藤助
河岸、8,は草加の甚左衛門河岸。9,は榎戸河岸がある。10,水戸橋河岸 現拘置
所に伊奈屋敷→幕府粃蔵があった。11,綾瀬橋 隅田川から綾瀬川への入り口で
ある。12,浅草・御蔵 13,日本橋伊勢町米河岸である。

中でも4番の妙見河岸から8番の甚左衛門河岸までは規模が大きく江戸時代末の綾瀬川の5河岸の可能性がある。

03 これは綾瀬川上流部の20万分の1 地勢図で、岩槻妙見河岸から上流の境橋河岸(原市河岸)と綾瀬川の起点を紹介する。6箇所読み上。

04 綾瀬川源流の2万5千分の1洪水地形分類図。備前堤と起点、綾瀬川と並行する見沼通船では柴山伏越まで遡ることができた。

05 綾瀬川の起点を示す標石と備前堤の様子、綾瀬川はここから始まる。

- 06 綾瀬川の河岸と見沼代用水、見沼通船の関係図。この瓦葺河岸は綾瀬川と見沼代用水の2つの水路の交差点にあたる。瓦葺掛樋は見沼代用水の重要な水路橋(水道橋)である。ここで綾瀬と関係のある見沼代用水の瓦葺掛樋と柴山伏越の説明 この2つの重要な施設についての絵図を紹介する。
- 07 瓦葺掛樋の絵図 →水道橋 綾瀬川、代用水、逃樋、東縁用水、西縁用水
- 08 柴山伏越の絵図 →水路トンネル、サイホン方式の施設、元荒川、代用水
- ＊参考 元荒川の×切り1629年(寛永6) 見沼代用水完成1728年(享保13)
柴山伏越完成1728年(享保13)
- 09 明治期の境橋付近の2万分の1地形図
- 10 境橋付近の現代の2万5千分の1地形図 境橋、小室陣屋、馬込河岸、綾瀬川、見沼代用水の東縁と西縁の流路の説明。
- 11 上尾市の境橋河岸 または原市河岸ともいう。ここが綾瀬川水系の河岸の最上流地点、この北側に伊奈氏の小室陣屋がある。遠景の森は陣屋跡である。左は境橋上流の用水堰、戦後築造されたもの。
- 12 伊奈陣屋の案内板と伊奈の陣屋跡 小室城跡。まだ土塁、空堀が存在する
- 13 蓮田の瓦葺河岸は見沼代用水の瓦葺掛樋のあった場所で、綾瀬川と見沼代用水との交差点。この少し下流に馬込河岸がある。右は風間河岸
- 14 新河岸付近の2万分の1地形図
- 15 新河岸(宮ヶ塔河岸)と大橋井堰、東武野田線と綾瀬川の交差する所。1925年(大正14)には、隅田川からの蒸気船の航路が開かれた。

右は、すの子河岸。ここも岩槻藩の年貢米の積み出し津であった。

- 16 綾瀬川中流域の河岸の分布図、代表的な河岸として赤字部分を説明。
- 17 妙見河岸付近の2万分の1地形図
- 18 妙見河岸跡と妙見神社 ここに用水堰があり、かつては舟運の終点だった。
- 19 大門・礮河岸付近の2万分の1地形図
- 20 戸塚・銀蔵河岸付近の2万分の1地形図
- 21 大門・礮河岸と戸塚・銀蔵河岸 銀蔵河岸はこの流域では最大規模であった。
- 22 蒲生・藤助河岸付近の2万分の1地形図
- 23 蒲生・藤助河岸 規模は大きく河岸場の形態が良く保存されている。
- 24 草加・甚左衛門河岸付近の2万分の1地形図
- 25 草加・甚左衛門河岸 近年、河岸場跡が石積みで復元された。
- 26 榎戸河岸付近の2万分の1地形図、ここも年貢米の積み出し津であった。
- 27 榎戸(内匠)河岸。左岸には浮塚(忠治)河岸がある。
- 28 綾瀬川下流域と隅田川の20万分の1の図 上流より5箇所読み上げる。
- 29 小菅・水戸橋付近の地形図 明治43年2万分1地形図 赤丸は粃蔵跡
- 30 小菅・粃蔵跡の絵図 綾瀬川からの入堀が描かれている。ここに幕府の粃蔵(米ではない)などが置かれた。それに利用した水路(入堀と言っている。)が屋敷内に描かれている。当然この屋敷の船着き場も「河岸」であった。 粃蔵という事実から江戸時代は一部では米の貯蔵は粃(稲を脱穀したもの)で行っていたことが判る。粃では4～5年は保存可能、ここに江戸町会所の粃蔵=江戸市中の飢饉

救済対策を担当した機関の蔵が置かれていた。

(なお、年貢は粃か玄米のどちらかで納める方式となっていた。)

- 31 水戸橋から上流を望む 1960年(昭和35)頃 西小菅自治会提供
川岸からせり出したところに何艘かの船が停泊。右は当時の航空写真
- 32 小菅付近の古隅田川と綾瀬川の流路、昔古隅田川は、旧武蔵と旧下総の国境を流れていた。1624年頃(寛永年間)綾瀬川はこの北方向榎戸河岸から開削され古隅田川に接続された。綾瀬川の現隅田川への更なる延長は1680(延宝8)である。小菅伊奈屋敷の周囲は古隅田川の曲流部分をうまく利用して、構え堀を作っている。
- 33 綾瀬橋付近の2万分の1の地形図、今の東武伊勢崎線 牛田駅付近 明治43年発行のもの 赤丸は牛田駅。綾瀬川を下った船は綾瀬橋から隅田川に下っている。
- 34 隅田川から綾瀬橋方面に遡る下肥船(明治43年頃)と隅田川の汐入りにあった汐入りの渡し舟(昭和36年)
- 35 浅草・両国付近の2万分1地形図 明治43年
- 36 浅草御蔵付近の1万分1地形図 明治17年、8本の入り堀が確認できる。
この時点での浅草・御蔵の様子は江戸時代とあまり変化はないと想定される。綾瀬川を下った年貢米の船はこの浅草御蔵の湊に入港したといわれている。
ここは東日本における幕府の年貢米が集積される場所であった。
- 37 浅草御蔵の拡大地図 M40年 関東大震災(地震)で大惨事となった本所被

服廠側にも入り堀がある。この本所にも、かつては幕府の米蔵があった。

- 38 浅草御蔵 南側部分の絵図、大英博物館資料
 - 39 蔵前橋西詰にある浅草御蔵があったことを示す石碑と対馬藩の船の保管庫 お船江(厳原町郷土資料館資料より)
 - 40 日本橋 伊勢町付近の2万分の1の地形図。(明治43年)鳥瞰図は→方向
 - 41 伊勢町米河岸付近の鳥瞰図 江戸名所図会より
 - 42 日本橋 伊勢町 米河岸の位置(現日本橋本町付近)米河岸の拡大図、江戸の物流基地であった。
 - 43 写真の伊勢町米河岸は、江戸と全国を結ぶ物流と情報の交流センターであった(鬼平犯科帳の舞台)。この写真中央の船で約60俵の米が輸送できた。この河岸と綾瀬川舟運との関係は不明であるが、河岸の風景は同様なものであったと想像される。(柳之宮・一国屋の後継である小沢製粉は戦前に神田・深川方面にもち米を出荷していた。)
- 右は江戸における河岸の概要図
- 44 綾瀬川流域の河岸の全体図。岩槻10万石から江戸へ直行する航路が開かれた。年貢米輸送が中心であった綾瀬川の舟運は、幕府の屋台骨の一部を支えていたといえる。

足立区立郷土博物館展示解説ボランティア